

日本基督教団 北海教区

北海教区 通信

July 2023 No.217 カムイエクウチカウシ号

CONTENTS もくじ









カムイエクウチカウシ山

カムイエクウチカウシ山 は、北海道日高山脈に属 する山である。

日本二百名山の一つに 数えられる。名称はアイヌ 語の「熊(神)の転げ落 ちる山」に由来する。登 山家の間ではしばしばカ ムエクと略して呼ばれる。

(出典: Wikipedia)

- 01 表紙の教会 札幌手稲教会
- o2 みことばに聴く

「小さな群れにも神の国」石橋香代子牧師(渡島福島教会)

- 94 特 集① 第83回北海教区定期総会報告
- **07** 特 集② 芦別祈りの家報告 さあ、芦別へ行こう
- os 各部·各委員会名簿
- 10 常置委員会報告
- 11 ようこそ北海教区へ 三好祐輝牧師(月寒教会)、小島啓史牧師(札幌中央教会)
- 12 地区報告
- 16 札幌からありがとう!Divanのミホミサン ディヴァン・スクルマン宣教師
- 17 センター通信 ホレンコ
- **18** マンガ それでも・・・Yes! マイペー助
- 18 編集後記
- 19 広 告
- as 特別付録
 - 1 議長書簡
 - 2 第83回 北海教区総会における主な決議事項
 - ●第四次長期宣教計画に基づく2023年度活動計画に関する件
 - ●第四次長期宣教計画総括および第五次長期宣教計画策定に関する件
 - ●北海教区と兵庫教区の宣教協約継続に関する件
 - ●沖縄を再び戦場にする敵基地攻撃能力保持と野放図な軍事費膨張に反対し 憲法9条に沿った平和外交の構築を求める決議に関する件
 - ●政府の原発推進計画に反対し、北海道に核廃棄物を持ち込ませないための 活動を推進する決議に関する件
 - ●2023年度アイヌ民族の権利を回復する運動の推進決議に関する件
 - 3 拡大版アエカップ 2022年度教会報告



教区通信のバックナンバーは左記のQRコードを読み込むことでご覧になることができます。 「あなたと教区を結ぶ」教区通信を今後とも よろしくお願いいたします。



NO.217









札幌地区

なり、どちらかの歴史と伝統が色濃く残る

ですが、それでは「吸収合併」の雰囲気に ま使用して一つになることも検討しました。

札幌市手稲区手稲本町2条3丁目3の1

す。どちらかの場所、

あるいは会堂 をそのま

幌富丘伝道所」が一つになってできた教会で

年に「手稲はこぶね教会」と「札 幌手稲教会は2年前の2021

の地で宣教をおこなってきましたが、201 牧師を招聘しました。 2年に兼牧を決意し、 大久保進牧師の開拓伝道により、 教会の伝道所として生まれました。 それぞれ 富丘伝道所」は1986年に琴似中央通 「手稲はこぶね教会」は1977年に それを前提に原和人 「札幌

申請することも考えましたが、他に教職謝 だけですが)積極的兼牧と呼んでいます。 会伝道所は会計を一つにして宣教をおこなう ると考え、車で10分の距離にある2つの教 兼牧の道を選択しました。これを(教会内 儀保障をもっと必要とする教会伝道所があ ました。 それぞれが教区の教職謝儀保障を その後、 この兼牧を決断するまでには時間を要し 合同礼拝·合同野外礼拝·合同

> さん頂きました。 たりと経験を積み重ね、 週の牧師説教、 員会・合同研修会・そして互いのイベントに誘い VDを流し、他の牧師の説教応援をいただい 一つになるまでの10年間の礼拝は、 信仰と親睦を深めつつ、一緒になりまし 牧師がいない礼拝では説教D 皆さんの協力もたく

も、どうぞよろしくお願いいたします。 からもゆっくり歩みを進めていきます。 しています。 行事もようやく復活しはじめ、 40名、オンラインで約10名の方々が出席 ルタイムのZoom配信も行い、礼拝堂に約 変わらずに短縮礼拝をおこなっています。 リア りつつありますが、礼拝は「コロナ」の状況から 現在の話をします。 地区、 地域と共に歩む教会として、これ 「アフターコロナ」 にな

Ŕ

いただきました。 心から感謝いたします。

現在の場所に新しい会堂を建てました。その

場所で新しい会堂」が必要と皆で考えて、 可能性があります。 新しい船出には「新しい

際には皆さまのご協力と祈り、建築献金を





みことばに聴く

「小さな群れにも神の国」

でいた。 石橋香代子 牧師(渡島福島教会・江差<mark>伝道所)</mark>

(1) 小さい教会代表です

渡島福島教会の主任担任教師と江差伝道所の担任教師を兼務している石橋香代子と申します。皆様には、いつも2教会の為に祈り、支えて下さり感謝申しあげます。

原先生から開会礼拝の依頼の電話があった時、「何故私が?ご立派な先生が他にも沢山いるのに…」と思い、お断りしようとしました。すると「連帯とか、兼牧とか、小規模教会とかの現状を…」と言われ、それならば「小さな教会代表ということでお受けします。」と答えました。

小規模教会と言いますが、そもそもどこから小規模教会なのでしょう?現住陪餐会員数が10名以下?経常収入が〇百万以下?…明確な線引きは無く、何処で線を引くかは、その人の置かれた状況によると思います。普段100名で礼拝している人から見れば、30名でも小規模だろうし、普段5名で礼拝を守っている私たち渡島福島教会や江差伝道所から見れば30名は大教会です(笑)。

3月に函館にある遺愛学院の中学校の卒業祝福礼拝に出席させていただきました。普段は4名を相手にするメッセージが、数百名の学生にお話しする機会が与えられ、少し緊張しました。しかし、どちらも同じ礼拝であり、どちらも大切です。5名だろうが、30名だろうが、300名だろうが、同じ神を礼拝する同じ礼拝。主がそこにおられ、主が祝福する礼拝。そのことを改めて感じました。

さて、たぶんどこからどう見ても文句なしの小規模 教会(それも二つ)代表の私が、ここ数年北海教区で体 験したことを少しの間お話しさせていただきます。

(2) 小さな群れに神の国

小さい教会は、頑張っています。毎週礼拝に通い、毎月月定献金を献げ、自分にできる精一杯で教会を支えます。一人休んだら、大変なのです。みんな役目があるのです。毎週司会する人、毎週奏楽する人、毎週お祈りする人…。一人も休めないのです。この頑張りを中・大規模教会がしたら、どんなに素晴らしい事が起こるだろうかといつも思います。一生懸命教会を支えている中・大規模教会の信徒さん、ごめんなさい。(笑)

吹けば飛ぶような教会は、「しかし飛ばない」ということをここ数年で体験しました。私は、本来、心配性ですから、江差伝道所の代務者を任されたとき、本当に心配しました。当時、現住陪餐会員3名(内1名は長期療養入院中)、礼拝出席も牧師を入れて3~4名でし

た。この地域の最後の砦、ここが無くなったら近くの教会まで70~80キロ教会が無くなるのです。小規模教会協議会で「本当に大変なんです。一緒に考えて下さい。」と訴えたら「そんなに心配しなくても大丈夫だよ。何とかなるよ。」と皆さんの意見。私は内心「人のことだと思って」と怒っていました。でも、本当に何とかなるようです(笑)。何とかなるのを見てきました。それは、神様が建てられ、その地域に置かれた神様の教会だからです。そして、それを支えようとする北海教区の連帯の力があるからです。

エフェソの信徒への手紙1:23に「教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。」とあります。教会は神のものであり、神が必要な物を全て満たして下さいます。また、今日のルカの福音書では、「小さな群れよ、恐れる。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。」(12:32)とあります。私が心配したところで私の手にがなるようなものではありません。小鳥や野の花がです。それどころか、父なる神様は、小さな群れに喜んです。それどころか、父なる神様は、小さな群れに喜んです。それに勝る幸いはありません。

野原の花がどのように育つかを考えてみなさい。働きもせず紡ぎもしない。しかし、言っておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。今日は野にあって、明日は炉に投げ込まれる草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことである。信仰の薄い者たちよ。あなたがたも、何を食べようか、何を飲もうかと考えてはならない。

また、思い悩むな。それはみな、世の異邦人が切に 求めているものだ。あなたがたの父は、これらのもの があなたがたに必要なことをご存知である。ただ、神 の国を求めなさい。そうすれば、これらのものは加え て与えられる。小さな群れよ、恐れるな。あなたがた の父は喜んで神の国をくださる。

(ルカによる福音書12章27 32節)

(3) 連帯の力

人間の力でどうにかなるものではありませんが、神の業をお手伝いする北海教区の連帯の力を体験してきました。その話も3点ばかりさせてください。

①車募金から始まる。利別教会から江差伝道所に通うのに軽自動車に乗っていたことを心配した道南地区の方々が車募金を呼びかけて下さいました。原先生が100万円の中古車を勧めて下さいましたが、貧しい他団体から移ってきたばかりの貧しい牧師であり、北海教区の連帯の素晴らしさを知らなかった私は、「そんな高い車買えるか~!」と思い、丁寧にお断りしました(笑)。ところが蓋を開けてみたら、全道から十分な金額が集まり、本当に驚きました。原先生は連帯の力を知っていたのですね。

②地区の応援もずっと続き、毎月の応援説教や、コロナの前は、クリスマスやイースター礼拝にも集まっていただき、たいへん励まされました。

③昨年の屋根・壁募金でも皆様にお世話になりました。江差・福島ちょうど同じ時期に屋根・壁の老朽化が発覚し、江差では屋根の葺き替え工事、渡島福島では壁の工事と屋根の塗り替え工事、同じく280万弱の工事が必要でした。この頃には、連帯の力も経験していましたし、少し信仰がありました。しかし、新築するほどの信仰はありませんでした。新築を決断した置戸教会は本当にすごいと思います。それはさておき、おかげさまで、屋根も壁もピカピカになり、雨風が来ても安心して過ごしています。

連帯の力に支えられ、小さい教会は大いに励まされ、存続を続けています。たぶん、江差や渡島福島の他にも北海教区で無ければ、存続が危うかった教会が多いのでは無いでしょうか?それは、北拓伝の痛みから始まった謝儀保障制度など、神の教会を何とか支え

ようとする教区の皆さんの祈りと奉仕の表れだと思うのです。

まとめ

実際には、2教会を牧会するのは大変です。教会員の人数が少なければ仕事が減るということでもありません。役員会も総会も2回、クリスマスやイースターも2回。人数が少ないからこそ、週報や会計まで牧師が担わないといけなくなります。幼稚園もあるので、もう体力的に限界で、4月から石橋隆広牧師に助けてもらうことになりました。たいへん感謝しています。

今回は触れませんでしたが、幼稚園の存続にも神様の恵みが沢山あり、本が一冊書けるぐらいのドラマがあります。今は、少し信仰が増したので、あまり心配していませんが、それでも、小さなちいさな教会二つと幼稚園の行く末はやはり心配です。しかし、神様の恵みと教区の連帯の力に支えられ、守られていくだろうと信じています。



【 教会案内 】 道南地区

₾ 渡島福島教会

主日礼拝 午前10時30分~11:30分

最寄り駅 無 函館よりバス 「トンネル記念館前」下車、徒歩10分 (祈ってほしいこと)

- ①教会の皆さんが心身共に健やかでありますように。
- ②地域の方々が教会に来られますように。 特に、幼稚園の保護者や園児から教会に導かれる方が起こされますように

☆ 江差伝道所

主日礼拝 午後2時00分~3:00分 最寄り駅 無 函館よりバス 「檜山振興局裏」下車、徒歩3分 (祈ってほしいこと)

- ①教会員と家族の皆さんが健康でありますように。
- ②今まで教会を管理してくださった方が高齢になり引っ越しされました。 2024年5月以降の会堂管理者が与えられますように祈っています。 皆様も祈り、良い情報があれば教えてください。





定期絲

5月3日(水)~ 5月4日(木)@札幌北光教会 報告者: 教区書記 西岡知洋













●開会礼拝・按手礼式

開会礼拝では石橋香代子議員(渡島福島・江差)に よる礼拝説教、原和人教区議長(札幌手稲)司式によ る金澤友幸教師(岩内)の按手礼式が行われた。

●開会

齋藤 開書記(旭川豊岡)が議員点呼を行い、正議 員総数119名中94名の出席を確認した。原 和人議長 (札幌手稲) は開会を宣言した。

●主な報告事項

「北海教区総会議長総括」からは「コロナ」下にあ る教区活動の振り返りがなされた。困難の中にも「今 なすべきこと」へと応答してきた教区の歩みが語られ ると同時に、「アフターコロナ」を見据えて共に考え 合い支え合っていくことの希望が述べられた(詳細は 巻末の特別付録「議長書簡」を参照のこと)。

●審議事項

議案第7号「第四次長期宣教計画に基づく2023年 度活動計画案に関する件」、議案第9号「2023年度 教区歳入歳出予算(付;負担金配分)に関する件」、 議案第10号「2023年度教職謝儀基準改定に関する 件」はいずれも賛成多数で可決された。また、第四次 長期宣教計画が2023年度で最終年を迎えるにあた り、議案第8号「第四次長期宣教計画の総括及び第五 次長期宣教計画の策定に関する件」が審議され賛成多 数で可決された。

議案第15号「各部委員選出に関する件」、議案第 16号「常任委員選出に関する件」、議案第22号「第 84回定期総会開催場所並びに日程に関する件」、議 案第23号「第83回定期総会議事録承認に関する件」 は常置委員会に付託された。

●兵庫教区との宣教協約継続

第78回北海教区定期総会(2018年度)に締結され た兵庫教区との宣教協約が5年を迎え、その継続が可 決された。年頭修養会や教職講座、小規模教会協議 会、わかもののオンライン学習会などを通して両教区 が交わりを持ち、互いの課題を担い合うために歩んで くることができた。今総会には東島勇人兵庫教区議長 (当時) に出席いただき、今後の連帯へと思いを馳せ てご挨拶をいただいた。その後、5月21日~22日に 行われた兵庫教区総会において「北海教区との教区間 宣教協約の継続に関する件」が可決された。





▲東島勇人兵庫教区議長(当時)









-回口ビーではバザーも開 催。北海教区といえばバザー。 対面の総会と同時に待ち侘びた 時間。

●総会特別決議

議案第18号「沖縄を再び戦場にする敵基地攻撃能 力保持と野放図な軍事費膨張に反対し、憲法9条に 沿った平和外交の構築を求める決議に関する件」、議 案第19号「政府の原発推進計画に反対し、北海道に 核廃棄物を持ち込ませないための活動を推進する決議 に関する件」、議案第20号「2023年度アイヌ民族の 権利回復する運動の推進決議に関する件」はすべて賛 成多数で可決された。

決議に対して、内容には理解を寄せつつも「キリス ト教会が信仰に立ってどのような判断をするのか。ま た聖書的理解や指摘がなされてもよいのではないか」 という意見があった。これに対して議場からは「なぜ 北海教区やキリスト教会がこれらのことに取り組むか について言及があって然るべき」との意見に加え

「(戦争に加担してきた)歴史的経緯を受け止め神に 示された平和を地上に証しし表明することは大切だ」 との応答もなされた。













▲美味しいドライカレー。 札幌北光教会の皆さんに感謝。

●教区アワー

総会1日目夕食の時間に教区アワーが開催され た。対面での総会が行われていなかった2020年 度以降に北海教区に来られた教師の自己紹介や、 各教会、委員会からのアピールが行われた。食卓 や教区アワーの時間もよい交わりの時となり、笑 顔に満ちて再会の喜びが会場に溢れていた。



黒田若雄日本基督教団問安使(同書記)との質疑応 答では沖縄教区との関係をめぐる問題と教団機構改定 について、また教団総会の議事運営方法に関して、さ らには聖路加病院チャプレンであった日本基督教団教 師による性暴力に関して議場より質問がなされた。





















▼特別委員 の皆さんのお 働きにより支 えられている 教区総会。感





▲教区アワーで自己紹介をしてくださった皆さん。ようこそ北海教区へ!



-日目の分かち合いの冒頭に小西陽祐前教 区幹事から挨拶をいただきました。

●分かち合い

今総会の大きな出来事は1日目夜と2日目 朝に「分かち合い」の時間を設けたことだと いえる。「コロナ」下にあって「顔と顔を合 わせてお互いに言葉を交わし合い、近況を聴 き合い、思いを分かち合う機会」が少なく なってしまった。それぞれの喜びも苦労も分 かち合い、その出会いに希望を見出そうと心 を伸ばす。そんな営みが教区形成には欠かせ ない。1日目の「分かち合い」は各地区委員 長から地区の歩みが語られた。2日目の「分 かち合い」は7グループに分かれて「困って いること」や「喜び」「それぞれの工夫」を 語り合った。一人ひとりが言葉を紡ぎ、受け 止めあうことができた時間であった。

分かち合い でのひとこと

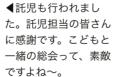


- ・教会での何気ない交わりがとても大切な時間だった ことにコロナの中で気がついた。
- ・「よってたかって助けられている教会」。
- ・コロナにより亀裂が生じてしまうことがあった。
- ・今日のように安心して発言しあえるフラットな関 係が「カルト」や「ハラスメント」を防ぐことにも つながるのでは。
- ・危機の時だから、教会は新しい展開が見えてくるの ではないか。
- ・本当に大変です!
- ・今日の分かち合いが「年頭修養会」のようで嬉し かった!
- ・奥尻沖の地震の時のことを、北海道の人たちが忘 れないでほしい。









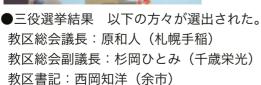




の中で生まれてくると信じます。







●常置委員選挙結果 以下の方々が選出された。

信徒:一條英俊(札幌北光)、 川嶋めぐみ (旭川豊岡)

教職:石田歩 (厚別)、久世そらち(札幌北部)

石橋香代子 (渡島福島・江差・1年任期)





「久しぶり!」の人も「初めまして!」の人も笑顔の溢 れた総会だったのではないでしょうか。顔と顔を合わせて じっくり語り合うことに力を注いだ総会でした。課題も多 くありますが、それらに向き合っていく力は出会いと祈り



2023年6月6日(火)芦別祈りの家の清掃、雪囲いの取り外し、草刈りに行って来ました。毎年この時期には芦別管理委員会と有志の方々が雪囲いを外し、敷地の整備を行なっています。また、これまでは8月に全道教会青少年夏期キャンプが5泊6日で行われ、わかものたちによって定期的に整備がなされてきました。

しかし、近年建物の老朽化が進み、動物が建物内に侵入した痕跡が見つかりました。2019年度は安全面を考慮してキャンプを別会場で行いました。また、それ以降はコロナの影響もありキャンプ自体が行えていませんでした。そのような中で、2023年度は久しぶりに芦別でのキャンプが行われることになりました。そんな芦別祈りの家の様子を北海教区につながる皆さんと分かち合いたく、特集記事といたしました。

今回は石田 歩 先生、小西陽祐先生、齋藤開先生、韓守賢 先生と西岡知洋で出かけた様子をご報告します。

中月 の8時30分。札幌を出発。目的地は芦別。天気 予報は曇り。午後は一時雨の予報も出ている。 心配をよそに車内は芦別での草刈りや掃除が楽しみすぎ て皆一様に表情は明るい。

10時30分ころに芦別祈りの家に到着した。気温はそれほど高くなくていいワーク日和である。草が膝上ほどまで生い茂っているが、敷地中央に横倒しになっている大木が目につく。昨年の秋に倒れてしまったようだ。本日は枝を切り払い夏のキャンプに向けての下準備を行う予定。倒木を横目に草をかき分けながら進むと・・・。

十字 が倒れている。倒れていると言っても十字架の横木が落ちている状態だ。かつて矢島信一牧師が「十字架は根元から折れるのではなく、まず横木から落ちる」とおっしゃっていた言葉が思い起こされた。



▲縦の木だけが残った十字架。この後、雪囲いも取り外す。

十字架の縦の木は「神と人との関係」を、横の木は 「人と人との関係」を表すという。新型コロナウイルス の蔓延により今まで私たちの暮らしの中で見えなくされて きたり、見ないようにしてきた課題や問題があらわになっ た。「弱さ」を抱えざるを得ない人をどれだけ踏み付け にし、切り捨ててきたかという点である。行き詰まりと不 安、焦りから異なる思いや立場を受け入れ合おうとする 心の余裕が失われ、分断と孤立が生じ続けている。そ んな私たちの暮らしの中で、芦別の十字架の横木が落ち た。人と人との関係が絶たれ、距離を取ることが求めら れてきてしまった今がある。だからこそ、神がつなぎ合 わせてくださった一人ひとりの関係をもう一度つなぎ合わ せていく使命を私たちは再度託されているのではない か。倒れた横木からそのことを知らされる思いである。 《人は倒れても、打ち捨てられるのではない。主がその 手をとらえていてくださる》(詩編37:24)。



▼枝を切り落としてキャンプへ備える



▲道央道札幌JCTにて。 芦別に行くには右か左か。

■礼拝堂は天井が一部は がれてしまっている状態だ が床面の傷みは少なかっ た。しかし、牧師館部分の 傷みは激しく見通しが立た ないのが現状である。



クで取り付けることができるだろうが



■芦別でのキャンプでは必要なものを自分 たちの手で作り上げる。さまざまな場所に 作り手たちの名前が刻まれていく。人と人 とが出会い、共に歩んだ証がここにある。







77258



■キャンプを通して信仰が育まれ、教会を支える者とさ れたわかものや、牧師として召命を与えられた者も多く ある。芦別は一人ひとりの生き方が変えられていく場 所でもある。教区の皆さんには芦別祈りの家について

思いを馳せて祈りを合わせていただければと思う。





第35回北海教区全道教会青少年夏期キャンプ開催

●日時:2023年8月11日(金)~8月14日(月)

●場所:芦別祈りの家と美馬牛福音伝道所

●主題: 「青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ」

●講師:伊藤大道さん(興部伝道所・稚内教会)

●対象:中学1年生~大学生くらいまで ●費用:B,DDD円

詳細は各教会にある 案内をご覧くださし

●今回は芦別祈りの家でワークを行い、宿泊は美馬牛福音伝道所をお借りする予定です。

●スタッフ:石田歩(委員長・厚別)、今橋与歩(札幌北部)、久世みなる(札幌北部)、小西真理子(厚別) 西岡知洋(余市)

●キャンプを支えてくださる方々:伊藤大道(興部・稚内)、板谷良彦(北海道クリスチャンセンター) 小西陽祐(無任所)、齋藤開(旭川豊岡)、齋藤麻実(旭川星光·美馬牛福音)、野田沢(SCF)、 西岡恵子(余市)、韓守賢(教区幹事)、山本光一(浦河)、美馬牛福音伝道所の皆さん

北海教区 各委員会名簿



常置季員会報告



2023年度第101常置委員会

日 時 2023年5月29日(月)19:04~23:10

場 所 オンライン

原和人 (議長・札幌手稲)、杉岡ひとみ(副議長・千歳栄光)、西岡知洋(書記・余市)、 には、「は、「ないした あゆむ」(書記・余市)、 「は、した たるゆむ」(厚別)、石橋香代子(渡島福島・江差)、一様英俊(札幌北光)、太田千代(月寒)、 「川嶋めぐみ(旭川豊岡)、久世そらち(札幌北部)、佐久間光昭(置戸)、辻中明子(島松) 出席者

審議事項			
1. 前回常置委員会議事録承認の件	【可決】		
2. 札幌教会との関係回復に関する件 【継続審			
3. 第83回北海教区定期総会委託事項に関する件			
(1)第83回北海教区定期総会議事録承認に関する件	【継続審議】		
(2)第84回北海教区定期総会開催場所並びに日程に関する件	【継続審議】		
(3)教区各部各委員会委員選任に関する件	【可決】		
(4)教区常任委員選任に関する件	【可決】		
4. 第83回北海教区定期総会決議執行に関する件	【可決】		
(1)沖縄を再び戦場にする敵基地攻撃能力保持と野放図な軍事費膨張に反対し			
憲法9条に沿った平和外交の構築を求める決議に関する件			
(2)政府の原発推進計画に反対し、			
北海道に核廃棄物を持ち込ませないための活動を推進する決議に関する件			
(3)2023年度アイヌ民族の権利を回復する運動の推進決議に関する件			
(4)第四次長期宣教計画に基づく2023年度活動計画に関する件			
5. 議長書簡に関する件	【可決】		
6. 北海教区新着任教師オリエンテーションに関する件	【可決】		
7. 第四次長期宣教計画総括に関する件	【継続審議】		
8. 第五次長期宣教計画策定に関する件	【継続審議】		
9. 教区幹事就業規則に関する件	【継続審議】		
10. 主任担任教師不在教会の礼拝支援に関する件	【継続審議】		
11. 浦河教会主任担任教師辞任承認申請に関する件	【可決】		
12. 浦河教会主任担任教師代務者決定承認申請に関する件	【可決】		
13. 元浦河教会主任担任教師辞任承認申請に関する件	【可決】		
14. 小西陽祐教師教務教師辞任承認申請に関する件	【可決】		
15. 韓守賢教師教務教師登録承認申請に関する件	【可決】		
16. 芦別教会主任担任教師代務者辞任承認申請に関する件	【可決】		
17. 芦別教会主任担任教師代務者決定承認申請に関する件	【可決】		
18. 信濃町教会 諸教会連帯資金申請に関する件	【可決】		
19. 北海道クリスチャンセンター使用料に関する件	【継続審議】		
20. 芦別祈りの家に関する件	【継続審議】		
21. 教師検定試験面接に関する件	【可決】		
22. 年頭修養会の在り方に関する件	【継続審議】		
23. 連続宣教協議会に関する件	【継続審議】		
24. 2023年度教職謝儀保障費二次配分に関する件	【継続審議】		
25. 次回常置委員会日程に関する件	【可決】		

第2回:2023年7月6日、第3回:2023年8月24日、第4回:2023年11月2日、

第5回:2024年1月18日、第6回:2024年3月12日

○任期満了:板谷良彦、西間木公孝、松島直子 ○任期継続:太田千代、佐久間光昭、辻中明子



辞任 藤吉求理子 (代務) 就任 三浦忠雄 (代務) 辞仟 齋藤 開 (主任) 就任 (兼務主任) 齋藤麻実 辞任 韓 守賢 (主任) (主任) 就任 齋藤 開 辞任 後藤正敏 (主任) 就任 卜部康之 (代務) 辞任 木村拓己 (主任) 木村 幸 辞任 (担任) 就任 石田 歩 (代務) 辞任 五味 (主任) 就任 山本光一 (代務) 辞任 石橋隆弘 (主任) 就任 柴田もゆる (代務) (2023年4月~7月14日) 就任 金鐘九 (主任) (2023年7月15日~) 就任 石橋隆弘 (担任) 辞任 石橋香代子 (兼務主任) 就任 石橋隆弘 (主任)

■2023年度より北海教区に加わってくださったお二人の教師をご紹介します。 これからどうぞよろしくお願いいたします。道内での異動の方々は上記の通りです。



4月から札幌市豊平区にあります月寒教会に赴任しました、三好祐輝です。前任地は愛知県日進市にあります南山教会で、コロナ禍が始まった2020年から3年間、伝道師・副牧師としてお仕えしました。

北海道に住むのは今回が初めてですが、2016年に夏期伝道実習で旭川六条教会の皆さまにお世話になり、西岡昌一郎先生(当時)から北拓伝や北海道の連帯について学びの時を頂きました。主任担任教師としては初めての教会で、右も左も分かりませんが、教会の皆さまやこども園の教職員の皆さま、教区の皆さまに助けられつつ、過ごしています。月寒教会はこども園しののめと共にある教会で、私も宗教主任としての働きを頂き、子どもたちや先生方から日々学びを頂いていて感謝です。私は小さな者ですが、そんな私でも用いてくださる主を信頼しつつ、出来ることから忠実に行っていきたいです。

牧会を志す前は東京で約7年間、役者をしており、巡業をする劇団に雇われた際に北海道に来たことがあります。その後、色々あって演劇を伝道に用いる道を示され、同志社大学神学部に社会人編入しました。

「遊び」を大切にしながら、楽しく聖書のお話を出来るようになりたいです。どうぞ宜しくお願いします。

2023年度から札幌中央教会に6代目の主任担任教師として着任いたしました小島啓史と申します。今年の三月まで東海教区の気賀教会(静岡県浜松市)に仕えておりました。これまでの教職としての私自身の歩みを改めて振り返りますと、主によって、教会に仕えて牧者として働くことの喜びをたくさん学ばせて頂いた歩みでありました。

牧者として働き始めてから11年目を迎えている今、主の御心によって、こうして北海道の地で牧者として新しい歩みを始められましたことを大変感謝しております。主によって常に主の御心のままに主の恵みをたくさん頂きながら働けるようにされていることを感謝しながら、牧者として主から頂いた務めを地道に果たして行きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



小島啓史

札幌中央教会(札幌地区)

北海教区

各地区の働き

道北地区

興部伝道所 · 稚内教会

伊藤大道

道北地区は、新年度に入り地区内の教師の異動などで全10教会・伝道所と1センターのうち、教職が5名しかいないという状況を迎えることになりました。そのため、ほとんどの教会において兼牧あるいは代務体制をとらざるを得えれて、地区委員会」を立ち上げ、北拝説教応援をいる教会の要請に従って、地区内外から説教者の派遣を調整することとなりました。その教職の方々に応援を依頼することもありますの教職の方々に応援を依頼することもあります。

こうした教職の数の減少に伴い、それぞれの 教職の負担が大きくなってきてもいます。地区 として十分なサポートを必要としますが、その 働きを担うのもほとんどが教職という矛盾の中、 教職の体調が守られることを祈るばかりです。

上記のほかに道北地区の特筆事項として、地区内のある信徒の方から多額の献金が地区にささげられたことが挙げられます。この献金は地区内の教職の生活支援にという願いをもって捧げられました。地区はこれを受けてその用途について協議した結果、毎年200万円を取り崩し、うち100万円を北海教区謝儀保障費制度に献金し、残りの100万円を教職支援のために用いることとなりました。

7月9日(日)には数年ぶりに「道北デー交換」 講壇礼拝」が実施される予定です。コロナ以来、 オンライン合同礼拝という形で行われてきましたが、今回ようやく対面での交換講壇礼拝となります。ただし、これも教職の不足により一部 オンラインでの合同礼拝となってしまいますが、これを機会に「顔と顔を合わせる関係」が再び出まることを願っています。

道東地区新得教会

西間木公孝

道東地区は、4年続けて、新型コロナウイルスの感染拡大により定期総会を書面で行いました。4月11日に帯広教会で開催された地区委員会がで議決権行使書の結果を確認し、総会を閉会をしました。すべての議案が賛成多数で承認されました。2023年度は、これまで、新型コロナウイルスのため開催できなかった行事が対面で開催できる予定です。

5月30日に置戸教会を会場に2023年度第1回地区教師会が開催されました。コロナ禍のため、これまでオンラインでしか開催できませんでしたが、ようやく顔と顔を合わせて、開催できました。最初に、昨年4月に釧路教会に赴任した上原誠教師の歓迎会を行いました。地区の教師たちから歓迎の言葉がありました。その後、地区の課題、それぞれの教会・伝道所の近況報告がありました。これまでのオンラインでの教師会と違い、たくさん話し合うことができ、恵みの時でした。

道東地区は、9月24日に交換講壇をします。 それぞれの教師が地区の教会に行き、交わりを 持ちます。この3年間開催できなかたので、と ても楽しみです。

また、道東地区修養会を9月頃予定しています。これまでは2年に1度、阿寒湖周辺のホテルで開催してきましたが、今年は、置戸教会で一日の研修会を予定しています。コロナ禍でこれまで地区の行事を行うことができず、対面での交わりが持てませんでしたが、今年は、昨年献堂された置戸教会の会堂に集い、これまでのコロナ禍でのそれぞれの歩みをわかちあいます。

6月27日には、地区婦人会委員会が池田町で開催されます。これまで、3年間、書面で各教会・伝道所の婦人会の活動報告をしてきましたが、今年はようやく顔と顔を合わせて、話し合うことができます。活動を通して、地区の交わりが深められることを感謝します。



置戸教会新会堂

石狩空知地区

江別教会

忍

石狩空知地区総会は2023年3月12日に行わ れた。2022年度の歩みを振り返り、各担当から の活動・会計報告を承認し、2023年度に向けた 課題を分かち合う時となった。

滝川二の坂伝道所は、一年間の代務者(佐藤 幹雄牧師) 体制が今しばらく続くこととなりそ うだが、加えて美唄教会も木村拓己・幸牧師離 任後の招聘が整わず、代務者(石田歩牧師・厚別) 体制で2023年度に臨むこととなった。両教会 の主任者招聘が実現することを願うものである。 地区総会では、選挙によって地区委員長に榮(江 別)を再選し、地区書記に佐藤幹雄牧師(岩見沢) を選び、両者の協議によって推薦された野幌教 会地区委員に会計を担当いただくことを了承し、 が担当されることとなった。

いっぱいで辞任されることを岩見沢教会の総会 ■ で了承されたことを確認し、いよいよ地区活動 の見直しが必要であることを受け止めながら、 当を整えた。一方で、昨年度からの大きな課題 である年頭修養会の担当について、懸念された ため、教区総会の折に、常置委員会宛てに、こⅠ れまで通りのホテルなどで一泊しての修養会は 会場・宿泊費の高騰で困難であること、参加費 を上乗せしてでもなお年度内の実施が必須であ | るのかを問い合わせた。6月9日に届いた返答は、 「2023年度の実施は見合わせ、2024年度の実 施とする」とのことで、方式や内容については、 今後の課題となっている。楽しみに待たれてい た方には申し訳ないことだが、ぜひ、教区の修 養会を新たな形で開催するために、内容・テー マを含めてアイデアをお知らせいただきたいと 願っている。教区全体で、良い形での修養会を 実現させたい。地区全体の高齢化は、実働可能 な人数の減少を意味する。欠けの多い者を招かし れた福音に立って、信仰の真実を共に追求した い。

札幌地区 札幌北光教会 指方信平

ı

ī

3月に開催された札幌地区総会において地区 三役が再選されました(委員長:指方信平、副 委員長: 秋山千四郎 書記: 杉本和道)。その後、 各教会からの委員選任を受けて第1回地区委員 会を開催し(5月18日)、23年度の役割分担と 活動計画について話し合いました。今後、各担 当において具体的な活動が展開されていきます。 予定としては地区大会、社会問題学習会、新年 礼拝、主任担任・担任教師会議(年2回に拡大)、 地区内礼拝交流、地区間講壇交換、地区 CS (「あ そぼうデー」を計画)、札青協(釧路教会キャラ バン)、ティーンズ、教師会、地区だより発行(年 2回)などです。数年ぶりに開催されるものも あり、「以前はどうだったっけ?」と思い出しな 地区三役が確定した。その後、5月12日に行わ ▮がらも、新たな思いで取り組み始められていま れた地区委員会で地区会計は鈴木文子地区委員 | す。また今年度は残り3回開催される地区委員 会会場を、普段開催してきた札幌北光教会では 地区委員会では、佐藤幹雄牧師が2023年度 なく、地区宣教協力献金を活用している3教会 に設定することで様子を知り、地区内連帯を深 めようと考えています。第2回地区委員会はエ スコンフィールドの近く北広島教会で開催です なんとか、6月の地区デーにおける交換講壇の担 Ⅰ (野球観戦に来られる際には、北広島教会の駐車 場をご利用ください~!とのことです)。また、 コロナ禍以前から活動休止状態となっている札 幌木曜礼拝の今後についても、地区内の交流と いう観点に立って具体的な協議が始まっていま

> 月寒教会に三好祐輝教師が、また札幌中央教 会に小島啓史教師がそれぞれ着任されました。 各教会の新たな歩みのためにお祈り下さい。西 札幌伝道所は創立40周年を迎えました。十二 使徒教会は新会堂建築に向けて準備しつつ仮会 堂として札幌北光教会での2年目を歩んでいま す。有志による合同オンライン礼拝(第5主日) の試みは今年度も継続されており、代務体制の 教会を支える働きともなっています。



苫小牧地区 苫小牧弥生教会 井石 彰

苫小牧地区の協力宣師としてご夫妻で40年に 亘ってお働きくださったジョイス・マギー先生 が、夫の故ジョージ・マギー先生のご遺骨を苫 小牧弥生教会の墓地に埋葬するためにご家族で 苫小牧に来られました。ジョージ先生は新型コ ロナウイルスに感染されて 2020 年 10 月 30 日 にアメリカの病院で亡くなられましたが、生前 から苫小牧弥生教会墓地への埋葬を希望されて いました。そこで苫小牧弥生教会では、地区の 諸教会をはじめマギー先生ご夫妻と交流のあっ た方々に案内をして、5月28日(日)に「ペ ンテコステ特別礼拝と記念感謝会」を行いまし た。特別礼拝では、ジョイス先生が「朽ちるこ とのない遺産」という題で説教をされ、イエス・ キリストの復活こそが私たちの希望の力であり、 その復活によって私たちは「朽ちることのない 遺産」、神の国と永遠のいのちを受け継ぐ希望を 与えられていることを力強く語られました。そⅠ の通訳を、ご子息のマークさんがされました。 出席者は85名ほどでした。

礼拝後、幼稚園のホールに移動して、故ジョー ジ先生の記念会を兼ねて愛餐会を行いました。 記念会では、故ジョージ先生の苫小牧地区での さまざまな宣教活動を共に想い起こしました。 先生は地区協力宣教師としてだけではなく、無量 牧師の教会の主任牧師としても働かれました。」選出されました。地区委員長・西岡知洋教師(余 また、教会をはじめ色々なところで英会話の指 Ⅰ 市)、副委員長・金澤友幸教師(岩内)、書記・ 導をされました。さらに、精神障がい者支援の ▼平宏史教師(手宮)、会計・阪口孝教師(倶知安)。 社会福祉活動や海外船員奉仕会・シーフェラー ▮4月11日(火)に余市教会にて地区委員会を行 ズの活動など、その幅広い活動は数えあげれば╹い新年度の活動について話し合ったり、それぞ 切りがありません。そして、多くの方にたくされの教会、幼稚園、学校の近況を共有しました。 んの良い思い出を残されました。そこで、記念 ■ 5月3日(水)~4日(木)にかけて行われた第 会では4名の方にその思い出を語っていただき 83回北海教区定期総会にて、金澤友幸教師の ました。逝去の報に接しながらも葬儀に出るこ 按手礼式が執り行われました。対面での教区総 良い機会となりました。その後、マギー先生ご「執り行うことができたことは感謝でした。金澤 家族と教会員が車で教会墓地に行き、埋葬式を「友幸教師と岩内教会、岩内幼稚園の歩みの上に 行いました。雨が心配されましたが、何とか無▮祝福をお祈りいたします。 事に終えることができました。

マギー先生のご家族は、日本人、アメリカ人、プラインで開催予定です。 オランダ人、エジプト人、チリ人ととても国際 ■北星余市高校は新年度1年生59名、編入生(2 的です。国際色豊かなご家族を見ながら、さま【年・3年)5名の新入生を迎えました(4月8 ざまな隔ての壁を破って一つにするキリストの「日現在」。近隣の余市教会の礼拝に3~4名の生 福音の宣教のために生きられたマギー先生ご夫 『徒が出席しており、5月28日(日)のペンテコ 妻の信仰の深さを感じました。





後志地区 余市教会 西岡知洋

■2023年2月26日(日)にオンラインで後志 地区総会を行いました。常任委員が以下の通り とができなかったので、故ジョージ先生を偲ぶⅠ会は2019年度以来で、按手礼式も共に集い

■地区の活動としては秋頃に地区信徒大会をオン

ステ礼拝には3年生の仲間が洗礼を受けました。

6月2日(金)、3日(土)には同校の視聴覚室にて「沖縄、再び戦場(いくさば)へ」(三上智恵監督)という映画のスピンオフ作品の上映会が行われました。教区の諸教会からも参加がありました(11名)。

これからも北星余市高校を覚えて教区の皆さま にお祈りをいただければ幸いです。



岩内教会金澤友幸教師 按手礼式



余市教会ペンテコステ礼拝での洗礼式

道南地区渡島福島教会

石橋香代子

七飯教会 2023 年度年題: 「公に言い表している信仰をしっかり保つ」(ヘブライ4:14~16)。

○4月より礼拝時におけるコロナ感染対策を少しずつ緩和させてきており、現在、歌う讃美歌は全節を歌っている。改めて、共なる賛美の喜びに感謝である。

八雲教会 教会では、イースターに一組のご夫婦が洗礼を受けられて大きな喜びでした。幼稚園では、子どもたちが花の日礼拝をして、地域の消防署・警察署・学校などに花を届けました。また、警察署から招待されて、ひまわりの種を蒔きました。

渡島福島教会 礼拝では、2節までの讃美歌ですが、他は通常に行われています。また、月2回の賛美祈祷会も継続しています。福島幼稚園の園児と共にイースター礼拝、母の日礼拝がもたれました。これからも、教会と幼稚園が地域にとって大切な存在であることを覚え進んでまいります。

江差伝道所 教会員それぞれ持病があり大きな 手術をされた方もおられます。教会員の健康の ためにお祈りいただきたいです。小規模教会と して教会間の繋がりの大切さを感じています。 礼拝では、讃美歌は2節までとしていますが、 他は通常通りで、聖餐式も行っています。

利別教会 金鍾九牧師をお迎えするまでの無牧期間、代務者の柴田もゆる牧師、隠退教師の先

道南地区では、引き続き Zoom にて地区委員会を行っています。今後の活動も不透明のため、各教会の短信をもって地区報告をさせていただきます。

生方、信徒のメッセージで毎週礼拝を守っています。こどもの教会、土曜学校はお休みしていますが、また再開できますことを感謝しています。新型コロナでの自粛が緩やかになり、徐々に通常の礼拝スタイルに戻していくことにしました。会堂、牧師館とも26年が経ち、あちこちに傷みが生じておりますが、出来るところは自分達で修理し、祈りつつ牧師着任を待ちたいと思います。来年130周年を迎える当教会を祈りのうちに覚えてくだされば幸いです。

函館教会 45年以上にわたって地域の子どもたちに居場所を開放している「ひいらぎ文庫」で、技能実習生や留学生への日本語教育に取り組んで来られた西村愛さんを講師に迎え、「地域における居場所づくり」について話していただいた。函館千歳教会 6月18日から短縮していた礼拝をコロナ前に戻しました。状況を見ながら他の活動についても再開する方向で考えています。園舎を建て替え、幼保連携型認定こども園として歩み出した函館ちとせ幼稚園は。6月24日に落成式を挙行しました。

遺愛学院 新年度感染症対策をしながら例年通りの諸行事に取り組んでいる。5月の「母の日礼拝」では講師の福島尚美先生に御奉仕頂いた。春の遠足も例年通りの場所に出かけることができた。6月には全校ボランティアとして近隣の清掃に出かけ、近隣教会の先生方との懇談会も開催でき、豊かな交わりのときを持てた。

-ミホミサンは、ブヌン語で平安と感謝を意味する言葉です-札幌からありがとう!

台湾基督長老教会宣教師 ディヴァン・スクルマン

知ることから祈りへ、祈りから行動へ

2023 年の世界祈祷日のテーマ国は私の国〜台湾で す。世界祈祷日は、多様なキリスト教の伝統を共有 するキリスト者女性により、1887年にアメリカの女 性たちが移住者や抑圧されている人たちを覚えて始 まりました。2度の世界大戦の経験から、地球規模の 視野をもって和解と平和を求める祈りによる世界的 な運動に発展しました。毎年 3 月第1金曜日を中心 に、テーマにそって祈りあい、世界的なネットワー クを持つ女性たちと祈りと行動を続けています。

かつて台湾の社会では、人々が出会った最初の挨 拶の言葉は、「**ご飯を食べましたか?**」でした。別れ るときには、「気をつけてね」とか「(順走)順調に帰 りますように」という言葉を使います。なぜ、「ご飯 を食べましたか?」「気をつけて」「順調に帰ります ように」などの言葉を使うかと言うと、戦争の時期、 物資の不足、盗賊の横行など、その当時の台湾は、 社会が不安定だったからです。そのため、お腹が満 たされているか、健康を維持できるか、外出後は無 事に帰れるかが人々の「究極の関心事」となってい ました。その後、日本統治時代や国民党の教育の影 響を受けてから、「おはよう、こんにちは、おやすみ」 「さようなら」といった挨拶が徐々に変わりました。

ブヌン族の年配者同士の挨拶の言葉は「あなたはま **だ死んでいないのかい?**」です。この言葉の意味は 「共に生きていることを喜んでいる」ということで す。お互いに長生き出来て嬉しいね、これからも元 気でいましょうね。年配者が若年層に対する挨拶と



して「**ミホミサフ**」があ ります。祝福の意味と感 謝を表すありがとうの言 葉です。クリスチャン同 士が会う時に、「平安(ピ ーンアン)」という言葉で 挨拶をしています。「神が 平安を与えてくださるよ うに、神と私たち一人ひ とりの間に、平和な関係



がもたらされますように」という意味です。

台湾の戒厳令下の時代に、蒋介石政権は言論と思 想の自由を求める政党や新聞の活動の禁止を含め、 多くの制限を加えました。彼らはまた、人々に対す る大規模な監視を行い、その結果、司法の不正と無 差別逮捕が行われました。この白テロの時代、政府 は自由、民主主義、人権の発展を制限したのです。 1970 年代、台湾長老教会は台湾の政治情勢に関する 三つの宣言を発表しました。宣言に署名した牧師や 信徒、人々はみんな、その行動のために自分の命を 失うことを予期して、遺書を準備していました。自 由、民主主義、人権のために闘う反国民党活動の 方々の努力によって、台湾政府は 1987 年、ついに 戒厳令を解除し、真の自由と民主主義への道を歩み 始めたのです。これらは長老教会の現代史における 出来事です。長老教会は妥協することなく、毅然と した態度を貫き、主イエスが民に寄り添い、共に苦 しまれたという信仰を持って伝え続けました。

16 世紀から、台湾は外国の力によって植民地とな ることを強いられ、民族、文化、社会、政治の間で 対立と統合を経験してきました。しかし、神の愛に よって、この島の人々は平和に暮らしています。台 湾の人々は進んで人をもてなし、互いに助けあい、 喜びを与えあっています。

御言葉を官べ伝えなさい。折りが良くても悪くても励みなさい

新共同訳聖書テモテへの手紙第二4章2節





北海道マスコミ伝道センター (<u>Ho</u>kkaido <u>R</u>adio <u>E</u>vangelism And

Mass Communication の頭文字を並べて、Horemco〈ホレンコ〉と呼んでいます。

- ★沿革…北海道マスコミ伝道センター 〈ホレンコ〉は、北米の教会の援助によって1959年に 創立され、主にラジオ放送や視聴覚教材を用いて、道内に居住する人々への福音伝道活動を行っ てきました。1980年に北米からの援助が終了した時点で、去就が迫られましたが、道内諸教 派・諸教会の協力を得て自立し、事業を継続してきました。自立した時点で組織的にはキリスト 教視聴覚センター(アバコ)の支部となりましたが、アバコが2019年に日本聖書協会と吸収合 併したのでホレンコはその傘下となり、今年は創立64年目、自立後43年を迎えています。
- ★目的…北海道のクリスチャンの協力で、まだキリストを知らない人々にラジオを通して福音を伝え その人たちがキリストを受け入れ、信仰の交わりに入るように働くことを、目的としています。
- ★毎年各教派から派遣されてくるおよそ20名の幹事が、放送部会と運営部会とに分かれてご奉仕くださっています。業務は、2名のスタッフで全てを行っています。財政面は非常に苦しい状況が続いており、毎年の献金額によって、放送伝道を継続出来るかどうかの判断を迫られています。

1. 福音放送

- ① HBC 放送「喜びへの扉」: 十曜日 午前6時35分~45分
- ② FM 放送(札幌圏)

*ラジオカロスサッポロ:日曜日 午前8時45分~9時 *ドラマシティ: 土曜日 午前10時45分~11時

- ③ テレフォンメッセージ: 011-736-0105 (月・木曜日にテープ交換)
- ④ ホームページで音声メッセージが聴けます。

2. その他

- ① 機関誌「ホレンコの友」: 毎回1,700部を道内に配布(年3回はカラー印刷)
- ② 葬儀用会葬品:中条オリジナル品、ロイズコーヒーユニオン

★ホレンコ業務:月曜日~木曜日 9時半~16時半まで。 TELO11-736-0104 札幌市北区北7条西6丁目 クリスチャンセンター3F

放送伝道へのご支援・献金を、よろしくお願い申し上げます

★郵便振替:02730-1-2075 ホレンコ事務所

編集後記

◎幼稚園にて「子どもの心身への電子メディアの影響」についての研修を受ける機会があった。スマホやタブレットなど電子メディア漬けの我が身を振り返りつつ戦々恐々としながら講師の言葉に耳を傾けていた。その言葉の中で「電子書籍よりも紙媒体の方が記憶に残りやすい」というものがあった。文字情報だけでなく、ページの厚みや文字の位置などから記憶が深められるという。私自身、「この本のこのあたりに書いてあった・・・」と記憶を辿ることがあり、講師の言葉を実感として受け止めることができた。

しかし、時代は「デジタル」である。「教区通信」 もデジタル化してホームページ上で閲覧すること も可能となっている。そのような中で紙媒体「ア ナログ」の大切さをしっかりと受け止め直したい と思う。

今号の発行にあたり、私はイギリスのロックバンドである Queen のアルバムをエンドレスで流して編集作業を行っていた。「RADIO GA GA (レディオガガ)」という楽曲が心を打った(もともと大好きな曲ではあるが)。ラジオが廃れテレビが全盛期の時代 (1984年)に「Radio what's new? Radio someone still loves you!」(ラジオ、調子はどうだい?まだ君を必要としている人がいるんだよ!)と歌い上げたのだ。今やテレビすら廃れつつある時代に突入した。画面越しやインターネットの仮想空間でも人は出会うことができる。そんな今「あなたと教区を結ぶ」教区通信の存在は人が出会うこと、繋がることの本来の意味を問いかけているように思う。(T.N)

広報委員会

西岡知洋 (余市教会)

亀岡 徹(東札幌教会)

倉本真理(札幌手稲教会)

下村晃司 (琴似中央通教会)

今城晋作(札幌北光教会)

杉本和道(真駒内教会)

まんが 塩谷真澄 (洞爺湖教会)

表紙の絵 枝元威郎 (十二使徒教会)



北海教区通信に関するお問い合わせは、 以下のメールアドレスにお送りください。

広報委員会 koho@hokkai-net.jp

【北海教区公式サイト】 http://hokkai-net.jp 右のQRコードを読み込むと 公式サイトに飛びます。



同志社大学 神学部・神学研究科 Tel. 075 (251) 3330 https://theo.doshisha.ac.jp/

学部第一年次

- ●**自己推薦入学試験** 第 | 次選考は書類選考、第 2 次選考は口頭試問 【出願受付】2023/9/1(金)~2023/9/7(木) 【口頭試問日】2023/10/7(土)
- ●推薦選抜入学試験 <試験科目:小論文、面接> 【出願受付】2023/II/I(水)~2023/II/6(月) 【試験日】2023/II/18(土) 【出願区分】A区分…キリスト教会に所属する方、あるいは キリスト教主義高等学校卒業見込みの方・卒業者の方 B区分…文化活動やスポーツ活動で優れた業績を修めた方

●一般選抜入学試験

【出願受付】2023/12/19(火)~2024/1/10(水) 【試験日】·全学部日程 2024/2/5(月) ·学部個別日程 2024/2/9(金)

●大学入学共通テストを利用する入学試験 <試験科目:小論文>

【出願受付】2023/12/19(火)~2024/1/10(水)

【個別学力検査日】2024/3/1(金)

【選抜方法】大学入学共通テストの「英語」の成績、および

神学部が実施する個別学力検査の「小論文」の成績により総合的に選抜します。

 学部第3年次転入学・編入学試験
 <試験科目:英語、論文、口述試験>

 【出願受付】2023/9/II (月) ~2023/9/I5 (金)
 (試験日】2023/10/I4 (土)

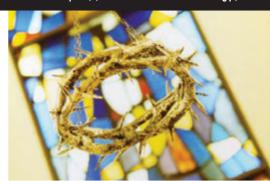


写真:神学館礼拝堂 同志社大学提供

同志社建学の精神を 受け継いだ 自由な学びと社会実践

大学院博士課程(前期課程)(後期課程)入学試験

【出願受付】・秋期実施 2023/7/27 (木) ~2023/8/4 (金) ・春期実施 2024/1/9 (火) ~2024/1/16 (火) 【試験日】・秋期実施 2023/9/2 (土) ・春期実施 2024/2/17 (土)

秋期は前期課程、春期は前期課程および後期課程の各入学試験(それぞれ社会人特別選抜入学試験を含む)を実施します。 試験科目などの詳細は入試要項でご確認ください。

入試要項請求や資料請求は同志社大学ウェブサイトよりご確認ください(送料負担等あり)



カルト脱会者の牧師2名が伝えるカルト対策。誰もがカルト化する可能性や教会のカルト化への警鐘、カルト宗教と健全な宗教の違いなど、キリスト者が知っておくべき情報が満載



わたしが 「カルト」 に?

ゆがんだ支配はすぐそばに

齋藤 篤 竹迫 之

川島堅二監修

カルト脱会者で現在はカルト被害者支援に携わる2名の牧師がカルト問題の現状、カルトの基礎知識、被害防止の対策などを丁寧に指南。随所につづられた著者の壮絶なカルト体験から現在までの歩みは証しであり、神の愛に触れることができる伝道の書でもある。 四六判 並製・136頁・定価1,650円

鈴木エイト氏推薦! (ジャーナリスト・作家)

「カルトを脱した2人の牧師が問題の本質を解き明かし対策を書き尽くした」



遠藤周作探究 全3巻《第2回配本》 山根道公 著

Ⅰ 遠藤周作 その人生と『沈黙』の真実

「沈黙」という題によって知られる小説に、当初、著者遠藤周作は「日向の匂い」というタイトルをつけていた――。『沈黙』執筆に至る経緯、本来の書名に遠藤がこめた想い、各登場人物の魂のドラマを読み解き、『沈黙』という作品の真実を解き明かす。遠藤周作の年譜付き。遠藤周作生誕100年を記念して改訂復刊。 A5判 上製・400頁・定価4,840円



シリーズ刊行案内

- 『Ⅱ 遠藤周作『深い河』 を読む――マザー・テレサ、宮沢賢治と響きあう世界』 定価3,520円
- 『Ⅲ 遠藤周作の文学とキリスト教』(仮題) 2024年2月予定



ヘンリ・ナウエン/ウォルター・ガフニー 著

原みち子 訳 木原活信 解説

四六判 並製・144頁・定価1.980円

20世紀を代表する霊的指導者ナウエンが、「老い」を語る注目作。福音の光に照らすとき、 老いは、隠したり否定したりすべきことではなく、人生の完成に向かう成長の道のりで あることがわかる。高齢者を世話(ケア)することの深い意味をも明らかにする。



カール・バルト入門 21世紀に和解を語る神学 上田光正

危機神学として日本の教会に多大な影響を与えたバルト神学。21世紀に入り、分断と対立が深刻化する今日、著者は「和解の神学」としてのバルトの価値にも目をとめる。バルト入門に最適な書。A5判 並製・176頁・定価2.640円



今日と明日をつなぐもの

SDGsと聖書のメッセージ

青山学院宗教主任会 編著

青山学院グローバルウィークで語られた、キリスト教の視点からSDGs(持続可能な開発目標)をとらえ直すチャペルメッセージを多数収録。神の国こそ、究極のSDGsだ!

四六判 並製・128頁・定価1,430円

日本キリスト教団出版局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 ☎03-3204-0422 四03-3204-0457 ホームページ https://bp-uccj.jp E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp [価格10%税込]

明確に語る。そのメッセージを

《釈義》

ح

-ロ書は彼らに、

自分たちが何を信じ、

いかに生きるべきかを、

学著

ローマ帝国の辺境で差別と迫害に苦しむキリスト者。

代の私たちに生き生きと伝える

松隈協

/ **好表連載** = 今高義也、 「﨑ランサム和彦、

飯田華子、

後藤里菜

金耿昊 朴

山口陽一、

寄稿=浅野淳博、

徳田

信

山

一中弘次、石川明人、

[責任編集=芦名定道]

特集=戦争の時代に平和を問う

を改訳・改題して贈る。

8月号

A5判・80頁・

定価66

定価2310円

「説教者ソロモ

空である」と観ずる旧約中の異色の書。

イ著

、宍戸達訳

コヘレト

ーヒリストではない!

「すべては

しかし著者はコヘレトを、

神への

Ι

П

信仰に立って自らの人生を生きよと勧める人として読む。

異性愛規範への抵抗まで6つの課題を考察。

本書は画期的な労作であり、

B 5 判・定価2750円

さらにメディア表象から

コラム記事で歴史 2022 年まで 1970

また4人の女性の証言とインタビュー、

センター

詳細な年

一後この分野の不可欠の文献となるだろう。

を辿る。

広く自由な神の恩寵の世界を精緻かつ壮大に描き上 バルト神学への無二の入門書。 《教会教義学》 (邦訳36巻) 四六判・定価3080円 を、 一 般読者のために

ウロ研究の新潮流

1希生著

界で激しい論議を呼んでいる「パウロへの新しい視点」(NPP) 信仰義認論を最重視する従来 『は、NPPの問題提起をあますところなく解説し、パウロ かを解明する のパウロ理解に異議を申し立て、 新約

1の宣教

四六判・定価2475円

心が

何であ

ったの

釈義と説

《説教》の2部構成を通して、 四六判・定価2200円 力強く 第 全6巻完結

IV

月本昭男著 最大級の詩篇注解 第76 篇から第100 篇まで

0

本体 3200 円 本体 3900 円 本体 3400 円

げ



7 月 11 日

金字塔的業績!

第1篇から第25篇まで 第26篇から第50篇まで

第51 篇から第75 篇まで

本体 3200 円 本体 3800 円

本体 3300 円

v 第 101 篇から第 125 篇まで 第126 篇から第150 篇まで

新装改訂版 今こそ知っておくべき 統一協会の実像 定価¥1.650(税込)

「20年以上前の著者の体験 は、残念ながら今でもまったく 統一協会の新車になっ たあなたの家族を取り戻し、あ なたにとっても家族の絆を再生 するために必読の書だ」著者が 体験した50歳代既婚女性の魂 の蘇りの実話。

> 神保タミ子/著 刊行:キリスト新聞社

おおじしん さがして はしって、まもるんだ 定価¥1,430(税込)

地震発生時、たとえ子ども が一人でも「自分を守る力」 を身につけられる、安心絵 本。。頻繁に地震が来ている 今、揺れ始めの8秒が生死を 分ける絶対に読んであげたい 絵本の一冊。貴重な資料も収 「子どもの身をまもる ための本」



刊行:岩崎書店

キリスト教書はもちろん 一般書のご注文もOK

8000円以上お買い上げ道内送料サービス! QR決済・クレジットカード・図書カード使えます! 御注文はファックスかメールを御利用下さい。kameoka@jb-shop.com(hp http://www.jb-shop.com)



SPIR COLOR OF SPINO

に海道キリスト教書

〒060-0807 札幌市北区北7条西6丁目 北海道クリスチャンセンター内 電話 011-737-1721 FAX011-747-5979 営業時間 午前 10 時~午後 6 時(月~土)日・祝は休業

黙想シリーズ

【共通】縦135mm×横103mm 税込価格1,980円(本体1,800円) ■合成皮革装・スリーブケース入り

黙想シリーズ 一第5段一 ひと時の黙想 心の貧しい者とは







ひと時の黙想 主と歩む365日

マックス・ルケード:著 日本聖書協会:訳

心に残る日々の聖句とメッセージ。



ることへと読む人を導いてくれるでしょう。



聖書引用:「聖書 聖書協会共同訳」 404頁 ISBN978-4-8

人気作家ルケードの著作。短い聖句とひと言メッセージで日々の黙想を。メッセージは、キリストの十字架による私たちの救いと、神の限りない赦しと恵みについて語っており、赦すこと、祈



詳しくはこちら

ひと時の黙想全き心を求めて

ストーミー・オマーティアン:著 日本聖書協会:訳

キリストにある自分を知る、日々の祈り。





432頁 ISBN978-4-8202-9278-4

キリストにある私は全き存在―この真実を心に刻み、自由にされて生きるために。祈りの人として知られる著者が、聖書の御言葉を一つずつたどりながら「キリストにある自分とは何者か」を確かめていく素朴な祈りをつづります。



詳しくはこちら

1分間の黙想心からの祈り

カレン・ムーア:著 日本聖書協会:訳

神の言葉を味わい、祈り委ねる幸いを。





400頁 ISBN978-4-8202-9264-7

主の前に、日々頭を垂れるとき、そばで励ましを与えてくれる一冊。多くの受賞歴を持つ米女性作家ムーアによる、その日一日、心に思い巡らしたい祈りに加え、同じテーマで祈った先人たちのすばらしい祈りも紹介しています。



詳しくはこちら

1分間の黙想 祈りの力

エドワード・M・バウンズ:著 日本聖書協会:訳

1日1分間、聖書に心をしずめる366日。





400頁 ISBN978-4-8202-9238-8

「人が自分のすべて、自分の持てるすべてを神にささげるとき、 祈りは最大の実りをその人にもたらします」一祈りに関する多 数の著作で知られるバウンズ。毎日の聖句とバウンズのメッ セージ、そして祈りを、1日1ページ、1年分収録。



詳しくはこちら

聖書協会共同訳、 講壇用聖書 同旧約聖書続編付き 講壇用

共通

●A4判 ●引照・注なし ●金箔(メタリック)押し書名/ロゴ入り

●小口三方金 ●専用化粧箱入り ●総革装

SI98

●1,960頁 ●本体重量4.55kg 税込価格**330,000円** (本体300,000円)

ISBN978-4-8202-1360-4

SI98DC

●2,376頁 ●本体重量5.30kg 税込価格**352,000円** (本体320,000円) ISBN978-4-8202-1361-1





至夕完成



リーフレットをご用意しておりますので、北海道キリスト教書店(全国のキリスト教専門書店)までお問い合わせください。

北星学園余市高等学校



ゆっくりと流れる時間の中で、 私の学校生活を楽しもう。

〒046-0003 北海道余市郡余市町黒川町19-2-1 Tel 0135-23-2165 Fax 0135-22-6097

文学部 総合人文学科

宗教・神学分野では、牧師や宗教科の教員を 目指す方々のためにキリスト教神学科目が充実しています。

総合型選抜(A日程·B日程)

A 日程: 2023年 **9月23日(土)** より一次面接 B 日程: 2023年 **11月25日(土)** より一次面接

学校推薦型選抜(学業・スポーツ・文化活動・キリスト者等)

試験日: 2023年 11月18日(土) 11月19日(日)

大学入学共通テスト利用選抜(前期・後期)

2024年 1月13日(土) 1月14日(日)

※上記日程は大学入学共通テストの試験日です。

※本学独自の個別学力検査は行いません。

一般選抜(前期日程・後期日程)

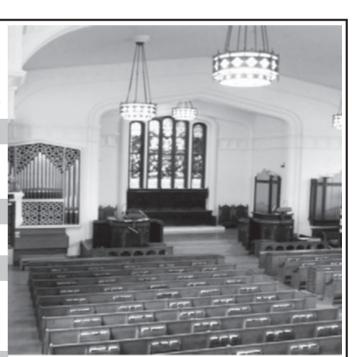
前期日程: 2024年 2月 1日(木) 2月 2日(金)

後期日程: 2024年 3月 5日(火)

編入学選抜(A日程·B日程)

A日程: 2023年 **10月 5日(木)** B日程: 2024年 **3月 4日(月)**

【新型コロナウイルス感染症の影響により、記載されている内容 (選抜の方法・ 日程・会場など)に変更があった場合は、大学ホームページでお知らせします。】



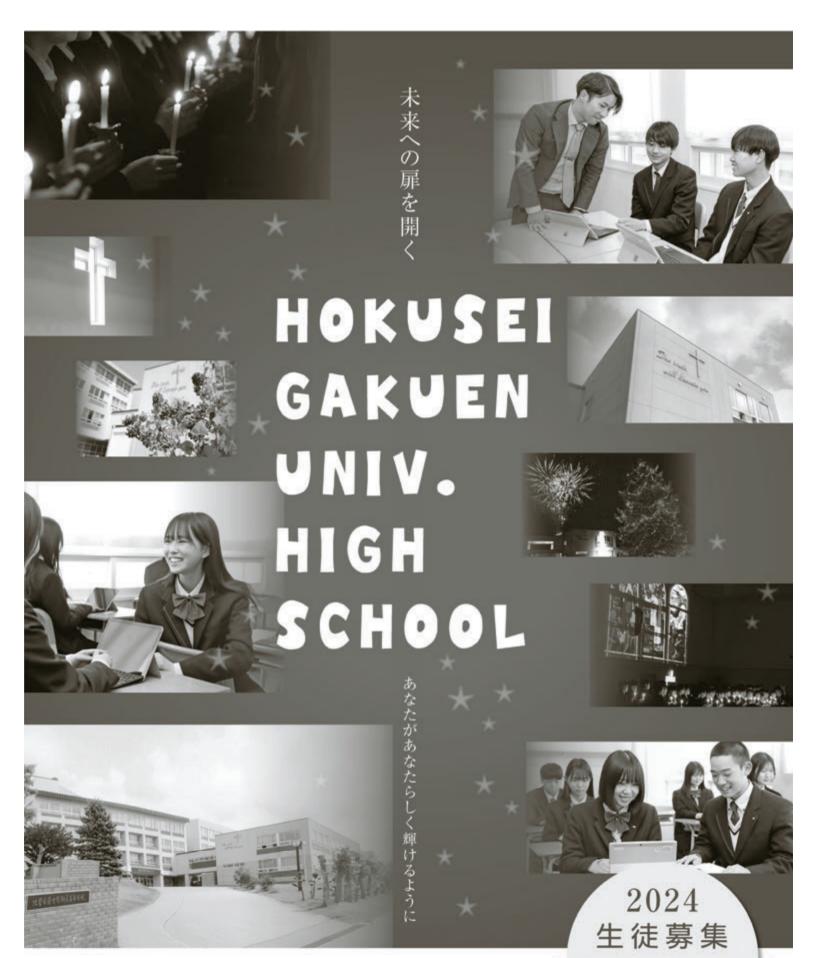
4/ 東北学院大学

お問合せ先 東北学院大学アドミッションズ・オフィス

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋1-3-1 Tel: 022-264-6455 / Fax: 022-264-6377

E-mail∶nyushi@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

仙台市営地下鉄「五橋駅」又は「愛宕橋駅」から徒歩5分





THE TRUTH WILL LIBERATE YOU.

北星学園大学附属高等学校

専願入学試験/2024年1月20日(土) ·般入学試験/2024年2月20日(火)

〒004-0007 札幌市摩別区厚別町下野幌 38番地 【TEL】011 (897) 2881 【ホームペーシ】 http://www.hokusei-s-h.ed.jp

学校公開説明会

□ 7月8日(土) ●第2回 8月26日(土) ●第3回 11月11日(土) ●10月14日(土)

授業見学会 生徒と教師の素顔を実感!!

夜の学校見学・相談会 疑問や不安を全て解測!

●11月28日 (火) ~12月7日 (木)

特別付録

- 1. 「北海教区にあるみなさまへ」北海教区議長ペンテコステ書簡
- 2. 第83回北海教区定期総会における主な決議事項
 - ●第四次長期宣教計画に基づく2023年度活動計画に関する件 (議案第7号)
 - ●第四次長期宣教計画総括および第五次長期宣教計画策定に関する件(議案第8号)
 - ●北海教区と兵庫教区の宣教協約継続に関する件 (議案第17号)
 - ●沖縄を再び戦場にする敵基地攻撃能力保持と野放図な軍事費膨張に反対し憲法9条に 沿った平和外交の構築を求める決議に関する件 (議案第18号)
 - ●政府の原発推進計画に反対し、北海道に核廃棄物を持ち込ませないための活動を推進する決議に関する件 (議案第19号)
 - ●2023年度アイヌ民族の権利を回復する運動の推進決議に関する件 (議案第20号)
- 3. アエカップ(アイヌ語で「消息」の意):2022年度教会活動報告

北海教区にあるみなさまへ

主のみ名を讃美します。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19、以下「コロナ」)の対策と影響が緩和状態になり、アフターコロナで如何に歩むのかを考える状況に変化しつつあります。その様な中で、それぞれの教会・伝道所、関係団体・学校・センターにおいては、すべての方々への宣教伝道にお励みのことと思います。携わるお一人お一人の上に神のお支えと祝福がありますように祈ります。

★久しぶりの対面方式総会

5月3日(水)~5月4日(木)の日程で第83回北海教区定期総会(以下、第83回総会)を「対面方式」で開催いたしました。2020年以降、「コロナ」の状況下の教区総会は「完全個別オンライン方式」、「書面方式」を採用しつつ行って参りました。しかし、ここにきて漸く「コロナ」の対策と影響が緩和された状況と判断し、第83回総会は以前の「対面方式」で行うことを常置委員会で決定しました。

ただし、以前の方式に完全に戻すのではなく、皆で今後の歩みを顔と心を合わせて考えていくことを主眼に入れた総会運営を考えました。その結果、顔と顔を合わせて近況報告を分かち合う時を2回設けること、三読会制を執らずに議事の時間をできるだけ短縮することを大事にしつつ、総会準備を行ってきました。今までとは違う総会の進め方、準備のあり方など、準備や考える事柄が多いものではありましたが、準備委員をはじめとする多くの方々のご協力によって、第83回総会が無事に閉会しましたことをここに報告いたします。

★顔と顔を合わせる総会の影響

思い返せば、第83回総会開催までの一年は、教区を支えてくださる一人ひとりが「コロナ」下で蓄積された疲労を負いつつ歩んだ一年でした。「コロナ」が不安の基盤にあり、教会財政、宣教伝道や礼拝方式のあり方、それから派生する教会における日常的な変化に戸惑いと疲れを覚える一年であったと想像します。けれども、第83回総会で皆が顔を合わせ、お互いに語り合ったことで、元気と希望をもって、笑顔で会場を後にできたのではないかと考えています。そして、それが今年一年の歩みに弾みがつくものであってほしいと願います。

★第83回総会の議案

さて、その第83回総会では全ての議案が可決されました。今総会で可決した議案の中の幾つかについて、ご報告と今後の方向性をお伝えします。議案第3号「教師の正教師按手に関する件」は、可決後に総会開会礼拝の中で、金澤友幸教師の按手式を執り行いました。議案第7号「第四次長期宣教計画に基づく2023年度活動計画に関する件」は宣教部委員会にその大部分を付託し、具体的な活動をしていきます。アフターコロナを視野に入れ、教区活動を継続して行えるかが大きな課題です。議案第8号「第四次長期宣教計画総括および第五次長期宣教計画策定に関する件」は常置委員会のもとにある第五次長期宣教計画策定小委員会に総括と策定を委託しています。今後、様々な形で皆さんと第五次長期宣教計画案を検討していくことになると思いますが、「変えるべきこととそうでないものを見極め、また、変わらざるを得ないものに向き合う」姿勢を大事にしていきたいと考えています。

議案第9号「2023年度教区歳入歳出予算(付:負担金配分)に関する件」は、負担金総額4300万円 (コロナ支援対策前は4600万円)を案として説明し、可決されました。援助費をはじめとする教区の大きな 働きにはどうしても先述の金額が必要です。アフターコロナを視野に入れた教会活動が活発化していく中では さらに援助費や教区の委員会費用も必要になってくることでしょう。 議案第17号「北海教区と兵庫教区との宣教協約に関する件」は、2018年度から始めた宣教協約を継続する議案であり、北海教区に東島勇人兵庫教区議長が来道下さいました。その後、5月21日(日)~22日(月)に開催された兵庫教区総会では、同じ議案が可決されました。今後5年間で具体的な宣教協約が進められることを期待します。

第83回総会は議長、副議長、書記のいわゆる三役選挙、常置委員選挙(毎年半数改選)の年でした(議案第11号~14号)。選挙結果は、議長に原和人(札幌手稲)、副議長に杉岡ひとみ(千歳栄光)、書記に西岡知洋(余市)が選出され、続いて行われた常置委員会選挙では、西岡知洋常置委員が任期1年を残して書記に選出された関係で、任期1年を含む教職3名、信徒2名が選出されました。

新しい教職常置委員(任期2年)には久世そらち(札幌北部)、石田歩(厚別)、石橋香代子(渡島福島教会、江差伝道所・任期1年)、信徒常置委員に一條英俊(札幌北光)、川嶋めぐみ(旭川豊岡)が選出されました。任期継続委員は、教職常置委員の辻中明子(島松)、信徒常置委員の太田千代(月寒)、佐久間光昭(置戸)です。

議案第25号「沖縄を再び戦場にする敵基地攻撃能力保持と野放図な軍事費膨張に反対し、憲法9条に沿った平和外交の構築を求める決議に関する件」、議案第26号「政府の原発推進計画に反対し、北海道に核廃棄物を持ち込ませないための活動を推進する決議に関する件」は、平和部門へ付託しました。議案第20号「2023年度アイヌ民族の権利を回復する運動の推進決議に関する件」はアイヌ民族情報センターが主体となってその活動を担います。わたし達は託すだけではなく、決議した責任をもって、共に考え、共感し、アイデアを出しつつ、一歩一歩希望をもって進んでいきたいと願っています。

★第83回総会のご協力に感謝します。

総会には当日の総会運営に必要な総会特別委員を選任します。第82回総会では、投票、報告審査、教会 記録審査委員の任を多くの議員の方々に担って頂きました。また、会場と食事を提供していただきました札幌 北光教会、託児担当の方々、礼拝奏楽奉仕者の皆さまに心から感謝を致します。

★今後のこと(教師着任など)

さて、教区の今後のことについて少し触れておきたいと思います。

2023年度は旭川豊岡教会に齋藤開教師、札幌中央教会に小島啓史教師、月寒教会に三好祐輝教師、美馬牛福音伝道所に齋藤麻美教師、江差伝道所に石橋隆広牧師が主任担任教師として着任されました。北海教区の宣教を担う友として歓迎いたします。就任式は午後に開催予定の教会もあり、その場で共に喜びを分かち合う機会もありそうです。また、現時点で代務者体制の教会は士別教会、和寒伝道所、旭川六条教会、滝川二の坂伝道所、美唄教会、十二使徒教会、札幌元町教会、西札幌伝道所、利別教会です。各々の教会・伝道所が目指す宣教の体制を支えられるように共に進め、祈りたいと思います。

★今後のこと(対面とオンライン方式)

第81回総会以降、北海教区の歩みはオンラインと実際に会う形の二通りを行う形が主流になりました。第83回総会を対面で行ったように、今後は委員会や集会なども対面方式で行われる回数が多くなるかもしれません。ですが、それぞれの特徴を活かしつつ、できるだけ多くの方々の参加と声を聞き、分かち合うような一年を過ごしたいと願っています。

★今後の課題とまとめ

第83回議案報告書の議長総括にも記しましたが、今後の教区の課題として教区予算の検討、活動計画の具体化、兼牧や共同牧会などの宣教の課題、次年度から始まる第五次長期宣教計画の作成など、「コロナ」、あるいは「アフターコロナ」の状況を意識しつつ、多くの議題が話し合われると思います。 2023年度も新しい意見、更なるアイデア、協力と行動力と決断力が必要です。わたし達は前向きに、熟慮断行し、「出来ること」を考え、自らを問うていく必要があるでしょう。互いに悩み、考え、頭を抱えながら、支え合ってゆく、そして行動していく2023年度でありたいと願っています。共に手を携えて歩んで参りましょう。

【議案 第7号】 第四次長期宣教計画に基づく 2023 年度活動計画に関する件

提案者:常置委員会

第四次長期宣教計画に基づく 2023 年度活動計画(案)

2022 年度は新型コロナウイルスの感染拡大が続く中ではあったが、北海教区の教会・伝道所、付帯施設、センター、地区の活動が、オンラインを用いて、少しずつ再開された一年であった。その一方、長期間にわたるコロナ感染状況が続く中で、疲れを覚える人が増えています。

このような中で、第四次長期宣教計画の最終年を迎えます。北海教区がこれまで大切にしたことを踏まえ、この激動の時代の中で、宣教のあり方を根本から問いつつ、共に今後の北海教区のあり方を見据えて、この時代にとって大切なことに重点を置いて活動をしていく。

I. 期間:10年

Ⅱ. わたしたちのミッション

「礼拝の喜びに生きる神の民」~革新・連帯・平和~

Ⅲ、盲教のビジョン

革新

1. 礼拝を通して新たにされるために

- (1) 教会の礼拝の充実に取り組む
 - ○多様な礼拝のあり方や取り組みへの理解や 学びを深め、支え合う。
- (2) 信徒の働きによって宣教を豊かにする
 - ○教職主導の教会形成を問い直し、信徒の 活動の新しい形を探る。
 - ○こども、わかもの、障がい者、高齢者と共 に生きる教会をめざす。
- (3) 献身としての献金の意義を確認し、 互いのことを覚えて支え合う教会を目指す
 - ○献金の意義と各教会の工夫を学ぶ。

連帯

2. 互いの礼拝を守り続けるために

- (1) 地区活動のいっそうの可能性を模索し、 充実させて協力関係を強化する
- ○各地区の状況を互いに知り合い、地区内・地区間 の宣教協力体制を強くする。
- (2)地区を越えた多様な協力関係を模索し、実現する
- ○地区間・教会間の交流と協力を進め、互いの理解を深める。
- ○他教区や世界の教会との交流と協力を強める。
- (3) 厳しい状況におかれている教会の礼拝を、 豊かで力あるものとするための具体的な 支援を実施する
 - ○無牧師教会の支援、謝儀保障の堅持、会堂・牧師館建築などにおいて互いに支え合う。

平 和

3. 礼拝から社会へ、社会から礼拝へ

- (1) 民主主義を守り、国家に人々の自由を侵害させない働きを担う
 - ○平和主義を破壊する改憲の動きが加速する中、これを阻止する取り組みを強める。
 - ○かつて神権天皇制の下で侵略戦争を引き起こし、また現在の民主主義とも相いれない天皇制<u>や個人</u>図神格化、全体主義に反対し、信教の自由・政教分離原則を徹底させる活動に取り組む
- (2)戦争に向かうあらゆる動きに反対し、平和を作り出す働きを担う
 - ○沖縄に差別的負担を強いる基地の廃止を目指し、米軍に治外法権を許す日米地位協定と、<u>日米軍事一体</u>化の中で先制攻撃を想定した軍備増強に反対する。
 - ○「原発と原爆」「放射能被曝」の問題を認識<u>するとともに、政府の原発再稼働・増設政策に反対し、核兵器</u> 廃絶・原発廃止を目指して道内での核廃棄物処理と泊原発再稼働阻止の運動に取り組む。
- (3)基本的人権や被差別少数者の人権を守り、その権利回復の働きを担う。
- 先住民族の権利回復と在日コリアン・外国人住民・移住労働者・障がい者・性的少数者・冤罪被害者の 人権問題に取り組む。
- ○部落差別問題・性差別問題・日本軍「性奴隷制」問題・ハラスメント被害防止・カルト被害の課題に取り組む。

<提案説明>

世界を覆う疫病や暴力、経済不安により、先が見えない時代の中で、多くの人が不安を抱えて生きている。 このような時代の中で、礼拝を通して、心を新たにされ、何が神の御心であるかをわきまえ知ることから活動を始めたい。

2023 年度もこの3年と同じく、新型コロナウイルスの感染の拡大が継続すると思われる。しかし、感染拡大から4年目を迎える2023年度は、これに向き合いながら、これまで以上に、北海教区の教会・伝道所、付帯施設、センター、地区の活動を再開していきたい。対面とオンラインの両方を用いたハイブリッドによる開催方法が徐々に定着する中で、コロナ前とは違った、新たな思いをもって、活動を前進させたい。

この3年、直接会って活動ができず、交わりが分断されてきた。「連帯」を大切に歩んできた北海教区に とって、この事態は痛切極まりないことだった。だからこそ、わたしたちは、ひとつの体が多くの部分から 成り立っていることを覚え、連帯して、共に歩んでいきたい。

激動な時代の中で、権力が横暴を極め、ひとり一人のいのちが危機に晒されている。キリスト者としての「見張り」の使命に立ち、ひとり一人のいのちが大切にされ、個人の尊重がなされるよう、平和をつくる働きをしていく。そして、北海教区がこれまで大切にしてきたことに加え、活動において、「ジェンダー平等の視点」を持ち、無意識に少数者を排除してしまう、自らの多数者性を自覚し、すべての課題に誠実に取り組んでいきたい。

教区財政が厳しい中でも、教会の使命を大切にしていきたい。20223 年度も共に宣教活動を行っていきたいと願う。

.....

【革新部門】

2023年度は、部門委員会改組となる年にあたる。これまでの活動の流れや課題を引き継ぎつつ、さらに、新型コロナウイルス感染拡大の約3年間によって、活動の形を変更して実施された各取り組みの再構築が必要と思われる。

- (1) については、「礼拝・教会音楽・教会教育・信徒の働きによる宣教」の課題を底流におきながら、共に新たにされることを探りたい。
- (2) については、「教区通信『教会えきでん』」を継続し、教会に集う各年代が、試行錯誤し挑戦する姿を紹介することによって宣教の豊かさを共有していきたいと思う。「わかもの」対象のプログラムは、リモートでのプログラム開催にとどまらず対面開催や実際に出かけていくことなどが活発に行なわれている。活動の形を従来の開催スタイルに限定しないで、わかものが交流し繋がることができるように柔軟な変更を行いながら取り組んでいきたい。共に生きる教会形成に関しては、誰もが無意識のうちにサポート「する・される」という意識を持っているかもしれないという視点に立って、教区の活動の仕方を再考する必要を感じている。2023 年度は、この点に注視していきたい。さらに、教区通信の朗読奉仕活動と手話通訳活動への支援を継続するための方法の検討を継続する。朗読奉仕と手話通訳の活動は、各々奉仕者グループによって担われている。革新部門委員会では財政的な支えに加え、活動が円滑に進むよう啓発に努めたい。
- (3) については、信徒数の減少が現実となっている現況や将来を考えると、財政面において各教会も教区も益々厳しくなることが想定され、献金運動的活動には限界がある。貴重な献金を原資として行なう各活動には、益々、知恵と工夫の共有が課題と考えられる。また、一部門委員会の課題とすることの難しさを感じている。

革新部門に託された「礼拝を通して新たにされるために」という宣教のビジョンの展開は、「教会の礼拝の充実に取り組むこと」と「信徒の働きによって宣教を豊かにすること」が相互に関連し合い重なり合って進められてきた。これは意図するものではなく必然であったと捉えている。2023 年度も、新しくされることを恐れないで、時機の課題に向き合いながら活動を進めたい。

......

【連帯部門】

連帯部門は、革新部門・平和部門と共に「礼拝の喜びに生きる神の民」とのミッションを総合的に担う中で、特に「互いの礼拝を守るために」とのビジョンに重点を置いて活動している。そのために各地区における多様な連帯の取り組みを理解し、これに教区として協力していく。

新型コロナウイルス感染拡大の影響によって数年間停滞した各地区活動が再開を目指す中で、地区相互の交流・協力による関係構築の役割を担い、連帯の深化を目指したい(例:各地区活動予定の情報共有のため、オンラインでの会合の機会を設ける。地区間講壇交換の実施、兼務・代務体制の地区を越えたサポート、地区間合同のCSキャンプなど)。また、2017年度より始まった「主任担任教師不在教会への礼拝支援制度」の活用のために情報を発信すると共に、現状を把握し必要な検討と提言を行っていく。

キリスト教主義学校と教会との連帯のためには、例えば各学校での礼拝説教への関わり、卒業式やクリスマス礼拝などへの出席、宗教主任との懇談会開催を検討していく。

広大な北海道における教師同士の連帯のため、教職講座の3年ぶりの実開催(10月)を目指して計画する。可能ならば年頭修養会開催に合わせて小規模教会協議会を計画し、研修と連帯のための機会とする。この他にも収穫感謝の集いなど、学びと交流の機会を作り出していく。次の噴火が危惧される洞爺湖教会のためには、同教会宣教協力協議会に加わり地域における教会維持のため連帯する。

.....

【平和部門】

2022 年度は、キリスト者として取り組まなければならない課題となるべき大きな出来事があった一年だった。2 月には、ロシアによるウクライナ武力侵攻があり、プーチン大統領による核兵器の使用を示唆するような発言もあった。そのような事態を前に、「防衛力」増強を容認する世論に対していかに語りかけるべきかが課題となっている。同時に、核兵器や原発を廃絶することの必要性を痛感させられた。また、安倍晋三元首相銃撃事件を契機に旧統一協会問題がクローズアップされることとなった。北海教区としては、その問題を認識しつつも十分な対応ができていなかったきらいがあり、対応が急がれる課題となっている。さらには、周辺国の脅威をことさらに喧伝した敵基地攻撃能力容認の閣議決定があり、日米軍事一体化による軍備拡大が急速に進んでいる。そのほかにも、安倍元首相国葬に見られる信教の自由の侵害と全体主義的動き、憲法審査会の拙速な審議、政治家等による差別的言辞の氾濫、韓国大統領交代に伴う人権回復運動への反動的な動きもあった。

このように、取り組まなければならない課題は山積していて、それに十分に対応することは難しいかも知れないが、それでも、すべての課題に誠実に取り組んでいきたいと考えている。

......

参考資料 主な活動例

この表は、それぞれの部門委員会や諸委員会、地区・教会などで、諸活動を具体化していくためのものです。 ★ 印の番号は、関連するプログラム・取り組みが、どの献金活動(袋献金)によって支えられているかを明らかに するためのものです。

月	プログラム/取り組み	献 金 活 動
4月		
5月	教区定期総会	アイヌ民族の権利回復活動献金 ★1
6月	政教分離を守る北海道集会(旭川) ★10	芦別祈りの家維持献金 ★2
7月	さんびかを手話で歌う集い(隔年開催) ★5 7.7平和集会	センター・ホレンコデー献金 ★3
8月	全道教会青少年夏期キャンプ 朗読講習会 ★5 炭鉱講座 ★2 親子短期保養プログラム ★12	日韓宣教協力献金 ★4
9月		共に生きる教会形成推進献金 ★5
10月	教職講座 部落差別問題学習会 ★7	性差別問題活動献金 ★6
11月	地区委員長会議 靖国神社問題北海道キリスト教連絡会議 ★10	部落差別をなくす運動推進献金 ★7 謝恩日献金 ★8
12月	芦別祈りの家クリスマス礼拝 ★2	
1月	年頭修養会 教区宣教協議会 牧会者研修会/小規模教会協議会(隔年開催) 生と性の豊かさセミナー ★6	年頭初穂献金 ★9
2月	[2・11集会	靖国神社問題活動献金 ★10
3月	北海道宗教者懇談会 ★10 全道教会中学高校生春の集い	
通年	教区通信発行 教区通信朗読奉仕 ★5 手話賛美の会 ★5 共に生きる教会形成教区集会/キャラバン (隔年開催) ★5 教会音楽の学び ハラスメント防止電話相談 ★6 靖国・天皇制問題 ★10 歴史認識・教科書問題 ★10 歴史認識・教科書問題 ★10 護憲運動・憲法改悪問題 安保・基地問題 安保・基地問題 環境の保全・原発問題 続一協会等カルト問題	洞爺湖教会宣教協力献金 ★11 東日本大震災支援活動献金 ★12 隠退教師を支える運動献金(百円献金) ★13 北日本三教区核と基地ネットワーク 障がい者差別問題 農業問題 生存・生活権問題 在日韓国・朝鮮人の人権問題 ★4 部落差別問題 ★7 冤罪・死刑制度等司法問題 アイヌ民族の権利回復と差別問題 ★1

- 備考 ★3 センター・ホレンコ献金 北海教区の関係センターである「道北クリスチャンセンター」(名寄)、「北海道 クリスチャンセンター」(札幌)、「三愛畜産センター」(瀬棚)と「北海道マスコミ伝道センター(ホレンコ)」 (札幌)の活動を支えるための献金。
 - ★8 謝恩日献金 教団隠退教師や遺族の年金充実のための献金。
 - ★9 年頭初穂献金 新規開拓伝道、教会伝道所の会堂建築や土地購入などの貸し付け・給付金に用いられる「教区開拓伝道資金」の充実のための献金。
 - ★11 有珠山噴火被災地にある洞爺湖教会の宣教協力のための献金。
 - ★13 無年金だった教団隠退教師と遺族を支える献金として、北海教区から始められた運動献金。近年は 隠退教師年金の支援のためにささげられている。

第四次長期宣教計画総括および第五次長期宣教計画策定に関する件

(提案者 常置委員会)

議案

1. 北海教区第四次長期宣教計画(2014~2023 年度)総括および、第五次長期宣教計画策定に向けて、原 案作成の作業を行う。また、その作業を常置委員会に付託する。

提案理由

北海教区は、「長期宣教計画 (1984~1993 年度)」「新長期宣教計画 (1994~2003 年度)」「第三次長期宣教 画 (2004~2013 年度)」、そして「第四次長期宣教計画 (2014~2023 年度)」と、10 年ごとの長期宣教計画 を策定し、その宣教の働きを進めてきました。10 年という長期的な展望に基づいて単年度の宣教活動を展開することが教区の働きに力を与えてきただけでなく、各期においてそれまでの活動を総括し、振り返ることで、教区の活動を展望する視座を与えられ、次期の活動への足がかりとしてきました。

第四次長期宣教計画は 2023 年度を区切りとしていますが、この 10 年のうちに日本社会は経済的に貧しくなり、教会においてはいわゆる「教勢の低下」は加速を続けています。また、社会においては、先行き不透明な時代における閉塞感により、排外主義・歴史修正主義が台頭し、人権蔑視に拍車がかかっているかのようです。また、2020 年から私たちの生活に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、教会の宣教、礼拝に変化をもたらしました。

こうした現実の中に生きる北海教区は、大切にしなければならない柱として長期宣教計画をさらに深め、進めていくため、新たな長期宣教計画策定の必要性に迫られています。変えるべきこととそうでないものを見極め、また、変わらざるを得ないものに向き合いながら、総括と策定の作業を進めていきたいと思います。

北海教区と兵庫教区の官教協約継続に関する件

提案者:常置委員会

議案

北海教区は兵庫教区との間で2018年度から始められた下記の宣教協約を継続する。

北海教区と兵庫教区との宣教協約

北海教区と兵庫教区は、阪神淡路大震災を契機に有珠山噴火災害を経て連帯と交流を積み 重ねてきた。それをより確かなものとし、互いの抱える重荷や痛み・喜びを担い合える関係 の豊かさを共に生きることを願い、以下の内容の協約を取り交わす。

- 1. 両教区は、それぞれに開催する集会等に参加を呼びかけ合い、人的交流に努める。
- 2. 両教区は、様々な災害被災者支援において協力しあい、支援の輪を広げていく取り組 みに努める。
- 3. 兵庫教区は、北海教区「アイヌ民族情報センター」および「洞爺湖教会宣教協力募金」 への連帯と献金を継続して行う。
- 4. この宣教協約は、双方の教区総会における承認をもって発効し、両教区間の協議を以て五年ごとに継続および内容についての見直しを行う。

2018年5月21日

日本基督教団北海教区総会 議長 久世そらち 日本基督教団兵庫教区総会 議長 古澤啓太

提案理由

北海教区第78回定期総会において、議案第15号「北海教区と兵庫教区との宣教協約締結に関する件」が決議されました。これは、1995年に発生した阪神淡路大震災への支援を通して、また、アイヌ民族情報センターと洞爺湖教会への諸課題の共有と献金を通して、深い交わりが宣教協約という形で結実したものです。今まで以上の交わりを通して、人的交流や諸課題の共有が期待され、懇談会などを重ねてきましたが、「コロナ」の状況により、当初予想したような交わりができませんでした。

宣教協約締結から5年が経ち、両教区の執行部で見直しを行いました。その結果として、今後も継続して、今まで以上の人的交流や諸課題を進めていくことを確認しています。この交流が互いの教区にとって豊かで恵みをもたらすものを信じて、継続を提案いたします。

〈参考〉 2018 年度教区間宣教協約締結後の経緯〈作成:兵庫教区〉

【2018年度】

 2019年1月14~16日 北海教区宣教連帯の旅/第67回北海教区年頭修養会(14~15日)、北海教区 宣教協議会(15日)、第34回北海教区牧会者研修会(15~16日)に兵庫教区から3名が参加。

【2019年度】

 2020年1月13~15日 北海教区宣教連帯の旅/第68回北海教区年頭修養会(13~14日)、北海教区 宣教協議会(14日)、北海教区小規模教会協議会(14~15日)に兵庫教区から5名が参加。

【2020年度】

- ・ 新型コロナ・ウイルス感染防止対策の影響により、北海教区年頭修養会が開催されず。
- 2021年1月26日 2020年度北海教区クロスワードパズルの景品に兵庫教区賞を提供する。

【2021年度】

- ・ 2021 年 11 月 23 日 北海教区通信 214 号特集記事「有珠山噴火から 22 年」のための座談会に兵庫教 区から 1 名が招待され、佃真人小委員会書記が出席した。
- ・ 2021 年度北海教区宣教協議会(オンライン、4回開催)に兵庫教区から複数名が出席した。
 - 第1回(11月13日)『わかもの』(革新部門委員会Aグループ)
 - 第2回(1月15日)『北海教区の連帯と財政~1回目』(教区財政検討小委員会)
 - 第3回(1月29日)『北海教区の連帯と財政~2回目』(教区財政検討小委員会)
 - 第4回(2月19日)『2022年度活動計画、2022年度会計予算』(宣教部委員会、財務部委員会)
- ・ 2021 年 12 月 15 日 北海教区と兵庫教区のオンライン懇談会(2021 年度第 1 回;通算第 1 回)/双方の三役、他が参加して、現状報告や意見交換を行った。
- ・2022年1月10日~11日 2021年度北海教区オンライン教職講座(主題「福音宣教を共に担うために ~いま考える、変わるべきもの、変えてはならないもの~」)に兵庫教区から複数名が参加した。
- ・ 2022年2月17日 北海教区と兵庫教区のオンライン懇談会(2021年度第2回:通算第2回)
- ・ 2022年2月27日 北海教区と兵庫教区のオンライン懇談会(2021年度第3回:通算第3回)
- ・ 2022 年 3 月 10 日 「実はあなたもターゲット…! ~知らずに受けていたカルト勧誘!!~」(Zoom 開催) (兵庫教区教育部青年活動主催)、北海教区から 3 名参加
- 2022 年 3 月 10 日 2021 年度北海教区クロスワードパズル景品に提供した兵庫教区賞当選者の早野允子さん(小樽公園通教会員)から受賞の礼状をいただいた。

【2022年度】

- ・ それぞれの書面での教区総会に、各教区総会議長名で挨拶の書面を送りあった。
- ・ 2022年5月26日 北海教区と兵庫教区のオンライン懇談会(2022年度第1回;通算第4回)
- ・ 2022 年 6 月 15 日 第 69 回北海教区年頭修養会 (2022 年 7 月 18 日オンライン開催) への"参加申し 込みのご案内"を東島勇人総会議長と佃真人小委員会書記の連名で教区内教会/伝道所に発信。
- ・ 2022 年 7 月 18 日 第 69 回北海教区年頭修養会 (Zoom によるオンライン) に兵庫教区から東島勇人議 長ほか複数名が参加した。
- ・ 2022 年 7 月 15 日 「ZOOMER 夜会 ソウルフード夜会 あなたの推し飯、おしえて!」(Zoom 開催) (兵庫教区教育部青年活動主催)。北海教区から 2 名参加
- ・ 2022 年 7 月 27 日 北海教区と兵庫教区のオンライン懇談会 (2022 年度第 2 回;通算第 5 回) /主として双方の 2022 年度教区総会や教団総会に向けての取り組み等について意見交換した。
- ・ 2022 年 12 月 18 日 「中高生から大人まで大歓迎 札青協クリスマス会」(Zoom 開催)(北海教区札幌 青年協議会主催)。兵庫教区から 1 名参加
- ・2023年1月9日 2022年度北海教区オンライン教職講座に兵庫教区から3名が招待され、柳本和良教 区書記、山本桂子宣教委員長、佃真人小委員会書記が出席した。またその際、原北海教区議長により、 東島議長からの書翰「北海教区教職講座にご参加の皆さま」が紹介された。
- ・2023年3月11日 北海教区と兵庫教区のオンライン懇談会(2022年度第3回;通算第6回)/北海教区からは原和人議長、杉岡ひとみ副議長、齋藤開書記、西間木公孝宣教委員長、兵庫教区からは東島勇人議長、上内鏡子副議長、柳本和良書記、山本桂子宣教委員長、佃真人小委員会書記が出席。それぞれの近況や2023年度の各教区総会への準備状況を交換した後、2018年度に締結した現在の教区間宣教協約について、協約文に「五年ごとに継続および内容についての見直しを行う」とあり2023年度がその年度に相当するため、どうするかが話し合われた。その結果、2018年度の協約締結後5年間の経緯について双方の教区間で確認し合いながら総括を作成し、それに基づいて同内容による宣教協約の継続を双方の教区総会で議案を提案して決議するべく、準備をすすめていくことで合意した。

【議案 第18号】

沖縄を再び戦場にする敵基地攻撃能力保持と野放図な軍事費膨張に反対し、 憲法 9 条に沿った平和外交の構築を求める決議に関する件

提案者:常置委員会

議案

政府が進める軍事費の大幅増額、敵基地攻撃能力の保有に強く反対し、東アジア地域の平和構築外交に全力を注ぐことを求めると共に、そのための運動に取り組む。

提案理由

政府は2022年12月、今後5年間の軍事費を、現行の約1.5倍となる43兆円に引き上げ、敵基地攻撃能力(いわゆる「反撃能力」)の保有、米国製巡航ミサイル「トマホーク」400発の購入方針などを決定しました。大軍拡の口実は北朝鮮のミサイル発射実験と「台湾有事」ですが、真の狙いは敵基地攻撃能力の保有によって自衛隊を米軍のミサイル先制攻撃システムに組み込むことにあります。このもくろみは、日本、とりわけミサイル基地がある沖縄および琉球弧全体を相手側の先制攻撃の標的としてさらす結果を招き、それに加え、環境破壊、住民の分断、事故や事件による被害など、琉球弧にある島々の暮らしが米軍、自衛隊によって、著しく脅かされ、大きな負担を強いられています。

冷静に見れば、北朝鮮のミサイル実験の狙いは日本攻撃ではなく、米国への反撃能力を誇示し、けん制することにあります。日米韓が軍拡を進めれば進めるほど、かえって北朝鮮のミサイル開発に拍車がかかるでしょう。

また、確かに中国は強大な軍事力を背景に、台湾独立を武力で阻止する姿勢を崩していません。それは台湾住民の自決権を否定するものであって国際的に容認されるものではありませんが、だからといって日本が戦争をする理由にはなりません。にもかかわらず敵基地攻撃能力を保有することは、自衛隊を米軍の「統合防空ミサイル防衛」構想に組み込み、自動的に中国との戦争に突入させるもので、戦争放棄を謳った憲法9条から完全に逸脱しているのです。

日本政府は、従来から「敵基地攻撃能力は憲法9条に違反しない」という詭弁を弄ぶ一方で、少なくとも「外国からの武力攻撃の排除のために必要な最小限度のものに限られ、他国の領域における武力行使は基本的に許されない」と答弁してきました。ところが、安倍晋三元首相は2021年末「台湾有事は日本有事だ」と発言し、麻生太郎自民党副総裁も、2022年8月「(台湾有事なら)沖縄、与那国島、与論島は戦闘区域外と言い切れず、戦争が起きる可能性は十分にある」と、中国領域への武力行使を公然と示唆しています。

敵基地攻撃能力の保有は、さらに精密な先制攻撃を招くだけです。米軍の統合ミサイル防衛なるものは、 先制攻撃によって敵のミサイルを瞬時に破壊することを目指しており、これに参加すれば有事発生と同時 に最大級の攻撃にさらされることを覚悟しなくてはなりません。中国はその能力を備えた軍事大国です。

そもそもミサイルをはじめとする強力な装備を大量配備すれば相手は攻撃してこないとか(いわゆる「抑止力」論)、先制奇襲で打撃を与えれば休戦を求めてくるというのは、相手の出方を自分たちの願望と取り違える非現実的な発想でしかなく、その誤りは真珠湾攻撃で歴史的に証明されています。

軍拡のための大増税や福祉・教育予算の削減は、ただでさえ政府・日銀の失政によって苦しめられている 人々の生活を破壊しています。まして戦争は人々に無益な犠牲を強いる最大の失政でしかありません。憲 法9条は、最後は戦争に至るしかない力と力の対決から脱却し、「平和をつくり出す」ための最大限の努力 を求めているのです。

【議案 第19号】

政府の原発推進計画に反対し、北海道に核廃棄物を持ち込ませないための活動を推進する決議に関する件

提案者:常置委員会

議案

原発の再稼働ならびに新設を進めようとしている政府の原子力政策に反対し、寿都町、神恵内村の概要調査を中止させるための運動を、様々な団体と協力して推進する。

提案理由

政府は福島原発事故の傷が未だ消えぬ中、「原子力を最大限活用」へと舵を切りました。2022 年 12 月、「G X (脱化石燃料) 実現に向けた基本方針」「原子力利用に関する基本的考え方」を公表し、9 基の原発を再稼働し、原発運転期間「原則 40 年最大年数 60 年」を覆して稼働 60 年超えの延長、プルサーマルの推進、立地地域への新たな交付金の増額、新しい原発と言われる「次世代革新炉」の開発を含む「原子力を将来にわたって持続的に活用」するための法案を、国会に提出することを閣議決定しました。

日本が、事故から12年を経た今も原子力緊急事態宣言下にあるにもかかわらず、原子力規制委員会は、政府のこれらの性急な原発推進案を了承してしまいました。東京電力福島原発事故の悲劇から得た教訓をないがしろにし、原子力規制委員会設置法第3条に謳われた、国民の生命、健康及び財産の保護、環境の保全に資するという任務を、規制委員会自らが放棄したと言わざるを得ません。

政府は、この原発推進への転換について、ロシアのウクライナ侵攻に伴うエネルギー価格の高騰という「エネルギー危機」を口実にしていますが、元々、原発はエネルギー目的だけではなく、原爆の材料となるプルトニウムを取り出すために製造・稼働してきた歴史があります。ロシアのウクライナ侵攻は、日本の核武装論も活発化させましたが、この核武装の論議を背後から支えているのが原発への回帰なのです。

原発はトイレなきマンションと言われますが、原発から出る放射性核廃棄物は何処にも行き場がなく、世界中の原発にたまり続けています。それは死の灰とも言われ、命を脅かす猛毒です。世界の原子力施設から放射能の被害実態が報じられています。イギリスの再処理工場の海岸で泳いでいた子どもたちが大勢被曝したこと、フランスの再処理工場近隣では牛乳やチーズから高濃度の放射能が検出された事、ウラン採掘現地では凄まじい被曝の実態が続いています。

北海道では寿都町と神恵内村が、20 億円の交付金と引き換えに、原発から出る特定放射性廃棄物最終処分場選定のための文献調査を引き受けました。調査はほぼ終了し、次の段階である概要調査に進むかどうかの瀬戸際に来ています。政府に、核兵器は勿論、原発を含めたすべての核の廃絶に取り組むことを求めると共に、北海道に核ゴミを持ち込ませないための運動を推進することを提案します。

【議案 第20号】

2023 年度アイヌ民族の権利を回復する運動の推進決議に関する件

提案者:常置委員会

議案

アイヌ民族の権利回復と差別撤廃の運動を推進するために、以下の事項に取り組む。

- 1. 学習・研修・交流・連帯活動
- (1) アイヌ民族の権利回復と差別撤廃のため、関連する運動や学習会を支援し連帯する。また、集会(オンライン含む)等に積極的に参加する。
 - ・サケ捕獲権確認訴訟協力
 - ・関連イヴェントに参加
- (2) アイヌ民族関連の諸資料を収集し、提供する。 機関誌 (ノヤ)、北海教区通信、ホームページ、Eメール、Facebook等を通しての広報。
- (3) アイヌ民族の歴史と現状を学ぶ研修(オンライン併用)の企画・実施。原稿執筆等の協力。
- (4) 講師派遣による学習活動支援
 - ・関連会議、集会への派遣。
- 2. 台湾基督長老教会のディヴァン・スクルマン宣教師を支援し、世界の先住民族に関する課題を共有する。
 - (1) 国家形成や植民地支配により、日本・台湾で行われてきた先住民族差別について、その歴史認識を深め、 新たな関係作りを目指した学習・啓発活動の実施
 - (2) 台湾基督長老教会の教会が培ってきた信仰や、先住民族官教のあり方を学ぶ学習会等の開催
 - ・原住民族(ユエンツーミンツー)の歴史と現状を学ぶオンライン研修の企画・実施。
 - ・原住民族(ユエンツーミンツー)讃美歌集(日本語訳)ブックレット作成準備

提案理由

北海道と呼ばれているアイヌ・モシリ(人間の大地)は、もともとアイヌ民族が自然と共に生きてきた土地です。しかし、日本近代天皇制国家による侵略によって、アイヌ民族は土地も森も川も、自由に狩猟することも、さらに文化や言葉も奪われ、多くのいのちも奪われました。そしてその苦難の歴史は十分に省みられることなく、現在にいたってもアイヌ民族は厳しい差別にさらされています。そのアイヌ・モシリに宣教活動を行なったキリスト教会もまた、アイヌ民族の存在に無関心であるばかりか、アイヌ民族としてのアイデンティティを尊重せず、明治政府の同化政策に協力さえしてしまいました。わたしたち日本基督教団北海教区は、教会が侵略者・抑圧者の側に身をおいて歩んできた歴史を反省し、1985年にアイヌ民族の権利回復の働きを共にする目的でアイヌ民族委員会を、1996年に「アイヌ民族の権利回復と差別撤廃を教会が宣教課題として取り組むことを目的」(センター規約3条)としてアイヌ民族情報センターを開設し、ささやかながら連帯の取り組みを進めてきました。

2020年8月17日に浦幌のアイヌ民族ラポロアイヌネイション(旧浦幌アイヌ協会)がサケ捕獲権確認の訴訟を起こしました。国と道は争う姿勢を示し11回の口頭弁論が3月に行われ、今後も継続します。先住権の確認を求める裁判です。先住権に関する学習会も行われています。積極的に支援し、学習会の案内を頻繁に行います。

コロナ禍にあって、オンラインでの学習会が頻繁に開催されています。アイヌの現状や先住権に関する学びができます。積極的に情報を提供します。今年もフィールドワークを開催します。

また台湾基督長老教会からアイヌ民族とわたしたちとの橋渡し役としてお迎えした原住民の教師、ディヴァン・スクルマン宣教師は6期目の活動を継続します。センタースタッフとして豊かな活動を続けて下さっています。特に台湾原住民のアイヌ民族研修に積極的な活動を展開しています。ディヴァン宣教師より台湾原住民の歴史と現状を学ぶ研修も実施します。また、台湾原住民族の方達との交流をすすめ、来年開催予定の台湾フィールドワークの準備を行います。

以上の理由から、今年度もアイヌ民族の権利回復と差別撤廃、先住民族に関わる諸課題を教区・教会の宣 教課題として、積極的に取り組むことを提案します。

アエカップ

く道 北 地 区>

稚内教会

1. 2022 年度の主な働き

兼牧体制になって 1 年が過ぎました。ただ、この1年もコロナによる制限もあり、毎週の礼拝を守る以外には大きな動きはありませんでした。その中で、牧師が理事長として幼稚園と積極的にかかわり、つながりが強まったことが特筆として挙げられます。

9月には伊藤牧師の就任式が齋藤開教区書記の司式によって行われ、教会員だけでなく幼稚園関係者も多数出席してくださり、祝福された就任式となったことに感謝します。

2. 当面する課題

教会員の高齢化がやはり一番の大きな課題であると言えます。そのために、役員をはじめとした働きの担い手が限られてしまい、教会の組織を今後どのようにしていくべきか真剣に考えていかなければなりません。

3. 活動方針

コロナの状況に大きな変化があることが見通されます。それに合わせて、礼拝や牧会の在り方などもまた見直していかなければなりません。同時に、新しい年度も引き続き幼稚園・保育園とのかかわりを深めていくことが求められています。教会全体として学園と教会とが祈りあい、支えあうあり方を模索していきたいと思います。

名寄教会

新型コロナ対策を講じながら毎週の礼拝を続けてきました。現在は少しずつ平日の来客が増え、礼拝出席数もコロナ以前に戻っています。名寄市の指定文化財見学のプログラムや名寄市民大学生の学外講義で出逢った方の中から礼拝に出席された方もいました。それらのプログラムで教会の歴史や活動について紹介し、教会の歴史や活動について紹介し、教会の内容を分かち合う中で、改めて名寄教会が114年の歴史の中で、地域で多くの働きを生み出してきたことを確認することができました。教会の教勢は減少し財政も厳しく教会の出してきたことを確認することがきました。なっていますが、これまでに生み出てきた働きの多くが生き生きと継続されていることを喜びたいと思います。

特筆すべきことは、名寄教会の牧師が名寄幼稚園の園長を務めるという長年続けられてきた体制が 2022 年度で一度終えることとなったことです。昨年度初頭より日向恭司牧師が体調を崩されていましたが、本年4月から3ヶ月間ほど休職

(アイヌ語で「**消息**」の意) 【第 83 回北海教区定期総会教会報告】

して休養を最優先とし、その後は名寄教会と道 北クリスチャンセンターの働きを兼務する形で の新しい形を試みる予定です。教会全体で支え、 継続可能な形を見いだすことができればと願っ ています。

興部伝道所

1. 2022 年度の主な働き

2022 年度は伊藤大道牧師の稚内教会との兼務という新しい体制の中歩む1年でした。教会として、伊藤牧師を稚内に送り出すことを祈りの課題とし、その中で礼拝を守り続けることができたことに感謝します。

また、興部においてもクラスターに近い状態でコロナの感染症が広がっていきましたが、それに対してもできる限りの対応をしながら礼拝を行いました。また、12月23日から25日にかけて紋別地方で発生した大規模停電の影響で、12月25日のクリスマス礼拝は休止せざるを得ず、教会員一同非常に残念な思いをしました。

2. 当面する課題

ずっと教会学校に通ってくれていた子どもたちが高校進学のため興部を離れ、そのために教会学校の活動は行うことができなくなりました。 また、礼拝出席者数の減少などが課題として挙げられます。

3. 活動方針

地区や教区、特にその中でも稚内教会と歩調を 合わせて礼拝を守り続けていきたいと思いま す。特に、道北地区全体で教職の数が減少する 中、興部伝道所としてもどのような協力ができ るかを考えていかなければなりません。

士別教会

1. 教務報告

2022 年度は士別教会にとって大きな変動の年でした。礼拝は引き続きコロナ対策として時間を短縮し、教会員と近隣在住の方のみで守りました。また、4月からは代務者である藤吉求理子教師が体調不良によって休職され、しばらく信徒の証による礼拝を続けてきました。その後、道北地区からの説教応援などの支援を受け、その中で藤吉教師より辞任の申し出があり、役員会においてそれを承認しました。

長年にわたり、士別教会のために様々な働きを してくださった藤吉教師に心からの感謝をささ げ、また、今後の歩みの上に主の導きをお祈り します。 藤吉教師の辞任を受け、教会として新しい代務者を立てなければならなくなり、道北地区および北海教区幹事に相談しながら話し合いを進め、この度、三浦忠雄教師を新たな代務者としてお迎えすることができました。

月に1度の礼拝で、代務体制という様々な制限の中、それでも希望と喜びをもってこれからも教会の歩みを続けていきたいと思います。

和寒伝道所

2022 年度も、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響下にあり、礼拝を 30 分の 短縮礼拝を継続、みんなが楽しみにしている 持ち寄りの食事会もできませんでしたが、道 北地区内への礼拝参加の呼びかけを再開しました。

また、12月1日には、西岡昌一郎牧師(千葉教会・元和寒伝道所代務者)を説教者としてお招きし、クリスマス礼拝を守ることができました。共に懐かしんだり、お互いの近況を報告し合う時間を持てたことを感謝いたします。オンラインによる礼拝や集会が定着する一方で、顔と顔を合わせ、話をすることができることの喜びがあったように思います。

和寒伝道所の運営と礼拝は、道北地区内の一人ひとりの応援によって、成り立っています。 しかしながら、コロナの状況や高齢化、体力 の低下と共に、従来できたことが、少しずつ できなくなりつつあります。地区内の皆さん に、協力していただいてきた雪下ろしも、今 回初めて業者に依頼いたしました。

そのような状況と向き合いつつも、礼拝による宣教を細々であっても続け、教会の枠を超えつつ、互いに支え合いながら進めていきたいと願っています。

旭川六条教会

年度聖句に「万事が益となるように共に働く」 (ローマ 8:28)を掲げて歩みました。

3年に渡る新型コロナウイルス感染症が教会生活に大きな影響を与え、戦争が始まり大地震が起こり、社会が不安の中にあります。私たちは主の御言葉を聴いて祈り、地の塩・世の光として歩むことを心掛けました。

感染拡大は一進一退しながらも、少しずつ回復しつつあります。教会の中においても、対面での集会や行事を実施できるようになりました。オンラインの活用が普及しました。礼拝のユーチューブ配信も定着し、従来とは異なる活動が可能となり、宣教の幅が広がりました。

対外的にはウクライナ救援募金(3~12 月)、 トルコ・シリア大地震救援募金(2 月~)を行っ ています。

2022 年は六条教会の信徒だった小説家・三浦綾子さんの生誕100の年でした。三浦光世・綾子ご夫妻を偲ぶ「懇談会」を6回開催し「塩狩峠」の上映会を行いました。教会員がご夫妻の思い出を語り、教会の121年の歩みの中に位置づけ、共通の宝とすることが出来ました。

教会員の減少傾向は止まりませんが、2名の洗礼者が与えられました。教会会計も苦しくはありますが、福音宣教のために歩んでいます。

後藤正敏牧師は5年間の任期を終えて3月末に退任し、4月から卜部康之牧師(千歳栄光教会)を代務者として迎えます。新たな体制での一年が始まります。旭川六条教会は会衆派教会の伝統に立って、歩んで参ります。

旭川豊岡教会

2022 年度は、旭川豊岡教会にとって異例な歩みとなりました。第82 回北海教区総会で、北海教区幹事に選出されたことにより、韓守賢牧師は、旭川豊岡教会・ひまわり幼稚園・北海教区の働きを兼務することになりました。そのため旭川豊岡教会・ひまわり幼稚園では、より一層、自覚的な働きが進められるようになりました。特に、2022 年度は、牧師交代に備え、役員会を中心に話し合いを重ねました。中年層のリーダーシップが発揮され始めています。

一方で、教会員の高齢化はますます現実のものとなっています。様々な理由で礼拝出席が叶わなくなる方が増えています。また、子どもたちは小学校高学年になり、なかなか教会に集えないという状況が続いています。

「コロナ」感染状況の中で、「Zoom ミーティング」による礼拝配信が定着しました。オンライン機材の運用法への理解も進みました。ひまわり幼稚園の教職員の出席も少しずつですが続いています。ひまわり幼稚園は、旭川の地において、「キリスト教保育」という理念を掲げ、誠実に、着実な歩みを続けています。

できないこと、できなくなったことを嘆くだけではなく、今できること、今すべきことを見極め、感謝しつつ、喜び、共に、生きる。そのような歩みが、旭川豊岡教会・ひまわり幼稚園をとおして続けられますようにと祈っています。旭川豊岡教会は新しい一歩を踏み出します。2022年度末を持って、韓守賢牧師が十二年間の働きを終えました。2023年度からは、齋藤開牧師が旭川豊岡教会、ひまわり幼稚園での働きを

始めます。どうぞ、お祈りください。

旭川星光伝道所

2022 年度は「この最も小さな者の一人にしたのは、すなわち、わたしにしたのである。(マタイによる福音書 25 章 40 節)」を年間聖句として歩みました。今年度も引き続き、新型コロウイルス感染症のために様々な影響がありました。しかしそのような状況にあっても礼拝を守り続け、フリーマーケットやコンサート等を開催することができたことは感謝でした。 により、教会に来ることにより、教会に来ることができなくても一緒に礼拝を守ることができなくがおられます。一緒に礼拝をささげる仲間が増えたことも感謝でした。

こどもたちの活動としては、旭川三教会(六条・豊岡・星光)CS 合同で行事を行っています。また、毎月第4土曜日の18時から「旭川3教会合同CSオンライン合同礼拝」を毎月行っています。今後とも3つの教会で協力しながら一緒にこどもたちのことを覚え、祈りつつ活動していきたいと願っています。また、「あそびば」には継続して近所のこどもたちが教会に遊びにきています。

2022 年度をもって齋藤開教師が当伝道所を辞任されました。これまでのご奉仕に心から感謝します。道北地区内の教師の減少、また当伝道所も牧師が一名体制、そして常駐しないという状況の変化の中で、ゆずれないところ、変えなければならないことを話し合いつつ、祈り求めながら歩んでいきたいと願っています。

美馬牛福音伝道所

2022 年度もたくさんのお祈りとお支えをありがとうございます。

まだ感染症への不安はありますが、主日礼拝を 守ることができました。年頭修養会や恒例の伝 道圏合同礼拝、旭川星光伝道所とのクリスマス 礼拝などオンラインを活用しながらの楽しい交 わりの時にも感謝です。

畑作業やトマトジュース作りを通して、多くの方に喜んでいただき教会員の励みとなっています。 秋には畑での収穫を楽しみ、クリスマスにはクランツ作りやツリーの飾り付け、トーンチャイム演奏など子ども達と季節を感じながら過ごす日々も尊い時間です。

2023 年度は、齋藤開牧師が辞任され、齋藤麻実牧師の1人体制となります。礼拝の持ち方など多くの話合いが必要です。柔軟さと挑戦する気持ちを大切に取り組みたいと思います。治療中の方、体調に不安のある方もいらっしゃいます。共に礼拝や行事を守る方法を考えています。

留萌宮園伝道所

宣教の拠点を留萌に置いて37年目を迎えます。 コロナ禍で礼拝を短縮化し、毎礼拝の中で行われていた"主の招きの食事"を休止中です。しかし、礼拝の中で、先週の感謝だったことと祈ってほしいことを全員が語りわかちあっています。ZOOMによるオンライン礼拝も続けています。毎週イギリス在住の方が参加し、励まされています。

教団伝道部を通して「こころの友」200部を応援頂いて毎月戸別配布を続けています。25年の配布を続けて初めてご近所の方から感謝を伝えられました。目に見える効果はありませんが、地道に活動を続ける大切さを実感しました。留萌は人口減少を続けていますが、その中においても、より積極的に宣教を続けています。

こどもひろばも消毒や三密対策をしつつ継続 し、連日、教会はこどもたちの声でにぎやかで す。また、事情のある家庭のこどもたちを兄弟 姉妹単位でお預かりし、お泊まり会も開催して います。無料で中学生の学習支援(塾)も続い ています。

教区アイヌ民族情報センターが当伝道所に移り 19年を経ました。アイヌ民族の権利回復の働き と主事の働きを覚え祈っています。

次年度より、牧師が士別教会の代務となります。また、道北地区内の牧師減少に伴い、礼拝応援も積極的に行おうと話し合っています。 会計運営もたいへん厳しいですが、教会員一同、祈りと努力を重ねています。 どうぞ覚えてお祈りとお支えをお願いします。

<道 東 地 区>

北見望ヶ丘教会

2022 年度の歩みは新会堂の礼拝堂で始まりました。それは祝福されたあゆみだと思うのですが、コロナ禍にあって様々なことにブレーキをかけなければならない歩みでした。北見市の感染状況は、地域によって感染が拡大し礼拝の出席を自粛される方が多くいました。年間の礼拝出席はそれにより減少しました。その結果献金額が下がり教会会計が厳しく推移しました。

礼拝堂が新築され音響がすばらしくなりました。 賛美歌の声が反響し、豊かな讃美をささげられるようになりました。礼拝説教は、前期は新会堂が与えられた恵みを旧約聖書の指針から学ぶ機会としました。後期は日本基督教団信仰告白を聖書から解き明かす説教としました。教団信仰告白については、牧師招聘の時に教会が示した「日本キリスト教団信仰告白を重んじる教会形成」に立ち戻って新会堂と共に次の歴史につなげたい思いがありました。そのため牧師は日 本基督教団信仰告白解説書を執筆し、今後それを学びのテキストにしていくために準備中です。 クリスマスに受洗者が与えられました。ここ数 年10代の信仰告白が生まれていることに感謝です。 新会堂は木造の断熱がすばらしい建物です。高 断熱により冬場の光熱費が予想以上に削減できました。感謝です。

置戸教会

2022 年度は新たな出発の年となりました。ひと つは新会堂への移転です。前年度に購入した、 緑豊かな町有地の一角にて、4月に起工式を行い 5 月着工、10 月に引っ越しました。70 年余り慣 れ親しんだ旧会堂の取り壊しには寂寥の感が伴 いましたが、多くの町民が思いを共有してくれ、 見学に訪れたり、十字架や鐘の処遇を尋ねてく れて感激しました。11 月の献堂式には、道東地 区の諸教会や宣教協力教会からも参列していた だき、久々の再会も喜び合いました。午前中の 献堂礼拝でご奉仕くださった韓守賢北海教区幹 事の労によって式をオンライン配信し、遠方の 方々にも恵みを証しできたことも、喜びを増し てくれました。12月、原和人北海教区議長の司 式により、荒谷陽子伝道師の按手礼式が執り行 われました。午後はオープンチャーチを兼ねて バザーを行い、町の人たちに新会堂をお披露目 しました。2月、三浦綾子読書会代表の森下辰衛 氏を講師に招き、コロナ禍で実施できなかった 70 周年記念講演会に代えて会堂新築記念講演会 を催しました。ここでも多くの町民の来会を得、 今後ますます町に開かれた教会として歩んでい きたいという願いがさらに深まりました。心配 していた建築予算は、全国募金の趣意書や教会 報に応じて豊かな捧げものをいただき、目標額 までもう少しというところです。皆様のお支え に深く感謝しますと共に、引き続きご支援をよ ろしくお願いいたします。

釧路教会

2022 年度は、主任牧師である上原智加子の結婚に伴い、担任教師として上原誠牧師を迎え、釧路教会として初めての複数教職の体制でスタートした。また教会と幼稚園の働きとしては、上原調な師が教会に専念し、上原誠牧師が教会に専念し、上原誠牧師がおもに幼稚園の働きを担う形をとり、前任者教師夫妻には学校法人釧路キリスト教学園の理事長と釧路めぐみ幼稚園の園長として設置者変更が叶い、学校法人釧路キリスト教学園に加わった湖畔幼稚園は、新園舎が昨年2月完成し、この4月より幼稚園型認定こども園として歩みを始めた。コロナ感染症拡大を受けて中止も

検討されていた献舎式は、人数等の制限を設けながらも無事に 10 月 2 日(日)に、新園舎の完成を教会・事業者ほか多くの関係者と共に喜び祝い、感謝の内に執り行うことができた。

市内の感染拡大を受けて、今年度も5月に二回ほど礼拝をオンラインでの家庭礼拝に切り替えて守った。その後、4か月ほど無音声での礼拝(讃美歌は歌わず、伴奏を聞き、主の祈り・使徒信条ほかは司式者と牧師のみ唱和)を行い、教会として感染防止に努めた。しかし10月半ばより、感染予防を徹底しながらも、コロナ前の礼拝に戻すことを決断し、皆で讃美歌を全節歌う喜びをかみしめることができた。昨年、今年と続いて、幼稚園の働きの引継ぎが課題として持ち越されている。

中標津伝道所

1.2022 年度の主な動き

石垣弘毅牧師が就任し 4 年目の年となりました。 無牧師の時を経験している伝道所にとって、教 会に牧師がいてくださることに改めて感謝の年 となりました。マタイ 28 章 18b~19a 節を年間目 標聖句とし、中標津の地での伝道を主なテーマ としてきました。

2022 年度も新型コロナウイルス感染防止のため制限のある中ではありましたが、聖日礼拝、礼拝後の交わり、信徒説教の学び、修養会、クリスマス礼拝と祝会などを行うことができました。それぞれに喜びにあふれる時となりました。喜びあふれているところには人が集まってくると信じておりますが、礼拝の出席者については昨年に比べて若干増加傾向で推移してきました。安定したメンバーの他に救道者や学生、旅行者、中標津伝道所にゆかりのある方々などが出席されました。

礼拝終了後の交わりは、その日の牧師や信徒の 説教の感想や近況を共有する時となっています。 「今日の説教を聞いて改めてその箇所の意味が 分かった」「受洗を考えていきたい」などの発 言がでるなど、この中標津に石垣弘毅牧師がい てくださり種がまかれていることを感じる1年と なりました。

2. 当面する課題と 2023 年度の活動方針

礼拝出席者は若干増加してきているものの、 1月20日に尾田静子姉を神の御元に送り現住陪 餐会員数は9名となりました。今後も財政的な問 題を抱えております。

活動方針は、礼拝の充実、教会の交わりを深める、伝道に取り組む、超教派や地域と繋がりつつ中標津地域での宣教を目指す、地区・教区との連帯を深める、中標津チーズ会の活動の充実

と将来を祈り求める、これからの宣教について皆で考えていきます。

帯広教会

帯広教会は 2020 年、2021 年と礼拝をお休みに したり、礼拝を縮小してきました。また、ほと んどの教会活動を行うことができず、教会にお ける交わりのひと時を送る時間が少なくなりま した。しかし、2022年は、礼拝は短縮礼拝では ありますが数回の休みはあったものの、ほぼ毎 週実施し、聖書研究会・祈りの会も再開するこ とができました。礼拝後のコーヒータイムも再 開し、軽食を食べながら、交わりの時を持って います。礼拝も従来の礼拝に戻すべく、感染状 況を見ながら徐々に、少しずつではありますが、 工夫しています。教会臨時総会においては、今 後起こりうる教会員の高齢化、減少に対してど のような取り組みができるかという話し合いを しました。10年後には教会員の減少が顕著にな り、これから地域に、また福音を求める方々の ためにどのように帯広教会は変わっていかなけ ればならないのか、役員会をはじめ教会員共々、 教会の将来に向けて危機感を共有しつつ、次年 度に向けてその対策を具体化しなければならな いという思いを持っています。教会員だけでな く、地域に、またあらゆる人々に帯広教会を知 っていただき、活用していただくために何がで きるか。2023 年はその課題のために教会員一同 が力を合わせて考える一年としたいと願ってい ます。

新得教会

年間聖句に「わたしは世の終わりまで、いつも あなたがたと共にいる」を掲げて歩みました。 2022 年度は、コロナ禍ではありましたが、年間 通して、すべての礼拝をみんなで集まってする ことができ、感謝します。

新得教会の動きとして、10 月に洗礼式が行われ、新しい仲間を迎えることができ、喜びました。 また 10 月には、長年、信仰生活を共にした兄弟が天に召されました。

5月から10月にかけて、新得町内に滞在された他教区の教会員と交わりを持つことができ、喜びでした。

子どもたちの集会を 11 月 23 日と 12 月 24 日に持つことができました。集会を通して、子どもたちへの伝道を積極的に行うことができました。8 月と 1 月には、オンラインを用い、置戸教会、中標津伝道所と交流することができました。コロナ禍でこれまで開催できなかった教会懇談会を 11 月に、教会讃美ワークショップを 3 月に再開することができました。11 月には収穫感謝愛

餐会をして、ひさしぶりに愛餐会を行いました。 毎月の週報発送作業も欠かさず行うことができ ました。教会バザーは残念ながら開催すること ができませんでした。

少しずつ活動が再開されてきましたが、コロナ禍による礼拝出席者の減少や高齢の方々の礼拝出席減の課題があります。そのため教会会計が厳しい状況です。教会関係者や子どもたち、地域の方々への積極的な宣教に取り組んでいきたいと思います。

<石 狩 空 知 地 区>

芦別教会

滝川二の坂伝道所

- ○佐藤幹雄牧師(岩見沢教会)を主任担任教師代 務者として、歩んできました。
- ○「主日礼拝を守り続けることと主任担任教師招聘へ向けた準備をすることに集中する」との「基本方針」に基づいて活動しましたが、「主任担任教師招聘」については進展を見ることなく、新年度にその課題を引き継ぐことになりました。
- ○「主日礼拝」については、地区内外の方達の「宣 教」奉仕を得て、毎主日、豊かな礼拝の時を持つ ことができました。
- ○また、基本的に毎水曜日の午前中に、定例の 集会として、「聖書輪読・三浦綾子読書会」開催 することができました。
- ○11 月に、全国の諸教会に向けて、滝川通信 『ソーラップチ』第 49 号を発行し、同時に、滝 川宣教協力献金を依頼しました(目標額 100 万円)。

美唄教会

コロナ禍の歩みも3年目となり、感染拡大状況に左右されつつも聖書と祈りの会や聖餐式、ランチや愛餐会を再開することができた。3年振りの地区の合同夏期キャンプには教会の子ども達がこぞって参加した。夏期研修旅行の実施は適わなかったが、それに代えて日帰りでの研修に教会員有志で出かけることができた。秋には昨年度に始めた平和絵本展も継続して開催された。例年の恒例行事は中止することなく殆ど実施できたと言える。

会員の動向としては、転居して美唄を離れる 方々があり、寂しさと共に奏楽者が一名のみに なってしまう悩みとも出会った。長年教会を支 えて来られた教会員らにも健康上の問題がそれ ぞれに現れ漠とした不安や寂しさが拭えない。 そうした日々にも、教会に集まる子どもたちの 賑やかさはいつも皆の心を和ませていた。

6月に教会創立70周年を迎え、記念誌の発行を

目指して教会の歩みを振り返る時であったが、 年度初めに牧師辞任の意を受け総会で決議し、 今後の歩みについても心を割いた年度でもあっ た。招聘活動は想定以上に難航し、次年度には 教会の歴史の中で初めて無牧の時代へ入る。

教会にも幼稚園にも不安と心細さは尽きないが、 困難の時にこそ教会員が一丸となり、歩みを続ける意志と使命感を確かにしてゆく新年度を目指したいところ。地区や教区にもお祈りお支えを願いたい。

岩見沢教会

○2022 年度は、前年に引き続き、新型コロナウ イルス感染症対策のため、行事や活動が制約を 余儀なくされましたが、それまでの対策(消毒用 エタノールやマスクの用意、隣席の人の飛沫に 直接さらされることがないようテーブルにアク リル製パーテーションを設置、換気に注意して 冬季間は熱交換型換気扇を稼働)を継続実施し て、礼拝とその後の昼食は休まず行ってきました。 ○もちろん、たくさんの人に来ていただいてす る行事は、当初から計画すらできませんでした が、それでも、バザーは、昨年度に引き続き規 模を縮小したミニ・バザーという形で行いまし たし、休止してきたクリスマス・イブ讃美礼拝 に代わる形で、「オルガンとマリンバによるクリ スマス・コンサート」を行うことができました。 このコンサートには、三人の演奏者のほかに 42 名の参加者がありましたが、その内、ちょうど 半分を、教会員の友人・知人・教会周辺在住の 方達で占め、一緒に演奏を楽しむ形で、クリス マスを祝うことができました。

栗山教会

今年度も、コロナ禍のなか、制約は減ってきているものの、注意対策を継続しつつ歩みました。 昨年度までに、転出等が続いたが、求道者2名を与えられて歩んでいます。クリスマスには1 名のご家族も参加くださり、感謝でした。

コロナが落ち着いている時期には、讃美歌練習 や運動不足対策体操を礼拝後に行ったり、昼食 やティータイムも折々に行いました。

『栗山教会通信』を、例年よりも遅れてしまいましたが、今年度も発行・発送することができました。

今冬は、地域の方々が口々に「これほどの雪は 初めて」と言われる大雪でした。昨冬~春にか けて雪害を受けた、外壁、灯油タンク、暖房ボ イラー、給湯ボイラーの交換を、会堂共済のお 助けを頂いて実施することができて、今冬は無 事に過ごせました。

地区・教区のお祈りと交わりとお支えと、全国

の諸教会とのつながりの中で、歩みが支えられていることをこころから感謝しています。

江別教会

今年度もコロナウイルス対応による制限がある 中で、礼拝、聖餐式、祈祷会を守ることができ た。しかしながら、定例の役員会以外、会食を 伴う集会は控えている。語り合う場が減少した ことを取り戻す欲求は強く、今後の回復を期待 している。2022年度の新たな取り組みとして月 に一度ではあるが、ハンドベルに親しむ集いを 行い、クリスマス礼拝の後に演奏する機会を得 た。また、教会学校は休会状態だが、礼拝に出 席している幼児向けに月に一度プログラムを組 んだ。今後、さらに定期的な取り組みとなるこ とを願っている。会員動向では、最高齢 104歳 のお一人と、95歳の会員が主の御許に召され た。お一人はオルガニスト奉仕をされていたこ ともあり、久しぶりに教会礼拝堂での小さな葬 儀となった。喜ばしいこととして 21 歳の若い受 洗者が与えられ、クリスマスの喜びが格別のも のとなった。クリスマスには、教会報「かいば おけ」145号を発行し、道内諸教会に郵送でき た。また、「教会案内」を整えたので、今後の アピールに使用したいと願っている。ちらほら と新来者の姿が見え、ようやく「教会へおいで 下さい」と声をかけることができそうな状態が 見え、次年度の課題ととらえている。

野幌教会

今年度の主題聖句はルカ2章14節。この年度、 土地購入や雪害による屋根壁修理、落雪防止柵 設置、駐車場アスファルト工事、礼拝堂暖房機 買替等、多くの費用を必要としました。地区で は教区年頭修養会準備、滝川二の坂伝道所の礼 拝応援や教区の委員会奉仕もありました。昨年 度に引続きジェンダーの課題を深め、『信徒の 友』にも紹介され、酪農学園大学の小林昭博教 授を礼拝に招き学びました。毎水曜「聖書と祈 りの会」、若者「わかいぜのっぽろ!」も聖書の 学びを中心にもたれ、東京神学大学に若者の一 人が献身、復活祭と降誕祭に若い受洗者が与え られました。礼拝ではコロナ感染防止を考慮し 時間短縮に讃美歌は1節のみ、聖餐は三大祝日の みとし、コロナ対応聖餐用具を用い、長期欠席 者への訪問聖餐もしました。地区の年頭修養会 開催準備にも加わりました。牧師は4月から児童 会代表を兼ね、平日これに当ります。幼稚園で は毎週教師への聖研、園児への礼拝、散発的な 園バス運転、毎月「とわの森三愛高校」礼拝奉 仕もありました。礼拝堂では教会関係者のチェ ロとヴァイオリンの演奏会、礼拝堂に一泊し、3 年ぶりの「農業と食べ物を考える会」もありました。新年度は、コロナ禍で様変わりし教会の交わりをどう形作るかが課題です。聖餐を毎月に戻し、各集会など含め皆で試行錯誤しながら少しずつ以前の状況に戻せればと願っています。

<札 幌 地 区>

札幌教会

札幌教会はコロナ禍が続く中、主日の礼拝を中心に、教会の使命であり召命である伝道に励みたいと願いつつ歩んでいます。主日は朝 9 時 30 分から第一主日礼拝(元々のCS礼拝)。出席する子どもが与えられ 10 数名の礼拝をささげています。10 時 30 分から第二主日礼拝。以前から比べ随分少なくなっていますが(コロナ禍の激減から少し戻り)80 名前後で礼拝をささげています。その内 10 名前後が求道者で、受洗準備を始めている者も与えられています。礼拝後は毎週青年祈り会、求道者会が行われ、それぞれの信仰の導きの時となっています。

第二主日礼拝後はキリスト教入門講座で使徒信条を学び、毎週水曜日午前は聖書を学び祈る会を行っています。今は20名前後の出席でガラテヤの信徒への手紙の御言葉から学び、それぞれのため、教会のため、世界のために祈りを合わせています。それとは別に第一水曜日の夕方に、「聖書の人々の祈り」のシリーズで聖書を学び祈る会IIを行い、10名弱の出席者があります。

病院・施設などへの訪問は難しいですが、教会堂まで来ることができない方への訪問聖餐を大切にしようと努めています。普段はYouTubeで家庭礼拝を守っている方のもとに、御言葉と聖餐を届けるという牧会の本来の業がなされることは感謝だと感じています。今後、教会組織や奉仕のスリム化、教会行事の検討、会計の抜本的見直し、文化財である礼拝堂や明星館の維持をしていかねばなりません。

札幌北光教会

2022 年度は4月以降、朝夕の主日礼拝を短縮形式から通常の形に戻すという早期の踏み込んだ決断をしました(礼拝動画配信・自宅礼拝用プリントは継続)。礼拝後のうどん食堂・コーナーも感染症対策を施した上での再開を年度当初から綿密に計画し、7月から再開するに至りました。水曜日の祈りの集いや、ナイトプログラム、ミニバザー、逝去者記念礼拝、入門講座、パイプオルガンミニコンサートなどもプログラム、ミニバザー、逝去者記念礼拝、入門講座、パイプオルガンミニコンサートなどもでまたがら積み重ね、その成果としてクリスマスには3年ぶりとなる祝会を開催し、コロナ以降に受洗・入会された18名の方々を歓迎するひと時を持つことができたことは記念すべきことで

した。これらの積極的な行動は、交わりの再開と共に教会財政の改善のための取り組みでもありました。2022 年度は北光教会の財政、そして塔・外壁の補修工事計画(23 年 7 月から工事開始)を覚えくださった教区内外の教会・個人の方々の祈りとお支えを励みとしながら歩んだ一年でした。伝道師招聘の 23 年度見送り、年度末特別献金の実施などの必要もありましたが、主の導きを信じつつ、この地に建つ北光教会の使命を再確認する歩みとなりました。健康状態の著しい変化により教会に集うことが困難になった教会員が多く、次年度は教会員で訪問する計画です。

札幌中央教会

札幌中央教会においては、2022 年度はコロナ禍においても、少しでも以前の様な活動を取り戻すために模索した一年であったと共に、牧師交代と言う大きな変化に備える一年となった。

教会員の二名を天へと送ることとなったが、教会員お連れ合いである男性が高齢であるにもかかわらず、洗礼を受けられて教会の群れに加えられたことは大きな喜びであった。

事業としては、5月の創立記念日の前後を目標に2022年5月に五十周年記念事業の一環として、「50年の歩み」を作成、配布を行った。

創立記念日に関しても、恒例の記念写真は業者に頼まず教会員の旦那様に依頼して撮影を行うと共に、恒例のお結び愛餐会も行うこととしたが、恒例であった皆で作って持ち寄るのは中止とし、購入したお結びとクッキーにて愛餐会を短時間で行うなど工夫して行った。

聖餐式も再開して、以前までの前に出て聖餐を受けていた方法も試みたが、個包装のぶどう液と個包装のウエハースを使用して聖餐式を行う様にしたため、席まで配餐する方法に変えて実施した。

牧師をはじめ、複数の教会員が新型コロナに陽性となったが、教会でクラスターを起こすことなく乗り越えることが出来たのは幸いであった。 牧師交代前に、教会内において混乱を生じてしまったことは残念の極みであったが、新たな牧師を迎え、喜びを持って教会員が一致して礼拝を捧げられることを望むばかりである。

西札幌伝道所

2022年4月より新たに代務として、札幌北光教会の指方信平牧師が与えられました。礼拝時間は10時30分からですが、月に一度指方牧師が来られる時は14時からとなりました。それ以外の礼拝は、信徒が交替で「わかちあい礼拝」を行っています。

他教会が協力してくれた原稿に沿ってテーマを わかちあったり、讃美礼拝、北光教会の CD を聴 き礼拝を守っています。礼拝出席人数は、平均4 ~6 名と少数です。コロナ禍が収まり、新しい礼 拝出席者が与えられる事を全員で祈っています。 当伝道所は初代立石賢治牧師の献堂により建て られ、今年5月で40周年という節目を迎えます。 記念誌を作成する準備をしています。今後は、 地区の他教会との交わりや集会の参加などに積 極的に参加して新しい出会いや発見をしていき たく思っています。有志教会による「オンライ ン合同礼拝」の参加も検討していますが、器具 やWi-Fi 設備への資金面で難しい面があります。 とりあえず、4月末に琴似中央教会にての「オン ライン合同礼拝」に信徒全員で体験参加して検 討したいと思います。

十二使徒教会

2022 年度標語「地上ではよそ者(旅人)であり、 仮住まいの者(寄留者)の群れとして天の故郷 へ共に向かう途上の教会として」に導かれ、北 海教区の大きな支えの中で歩みました。教会が 負った会堂に伴う大きな課題に1つ1つに取り組 んだ1年でした。札幌北光教会と北海教区に連な る牧師の方々のご理解・ご協力に支えられ、引 き続き、新型コロナ感染予防対応には十分留意 し、礼拝場所は7月から札幌北光教会のお世話に なり、毎聖日 14 時半から礼拝を守ることが出来 ています。欠席の方々に週報や説教をお送りす ることを、昨年同様に励行しました。また、感 染予防のために、礼拝以外の集会や活動は行い ませんでした。仮住まいの礼拝堂で礼拝を休ま ず、主にある兄弟姉妹が共に集い、み言葉を聞 き続けられる恵みに感謝しつつ、信仰の基本に 立ち続けました。11月、札幌北部教会のご理 解・ご協力のもと、久世そらち牧師が代務者を お引き受け下さり、大きな課題の1つ、会堂解体 への歩みを進めることが出来ました。2月、新会 堂に向けて教会員の思いを合わせる歩みの1歩を 踏み出したばかりです。柔軟に希望を失わず主 と共に歩み続けて行きたいです。

月寒教会

2022 年度も、たくさん地区や教区のみなさんに 支えられた年でした。代務教師が交代し原和人 代務教師に導いていただきました。コロナ禍で ずっと延期していた献堂式を10月に行うことが 出来ましたが、札幌地区有志教会の支えで今年 度第5週の主日に実施したオンライン合同礼拝 に合わせていただき、参加教会と合わせて250 名ほどの方々と共に祝福の時を持つことができ 感謝でした。また、対外向けに献堂感謝のコン サートを3月に行いました。短い時間でしたが教会以外の方々を招き、こどももおとなも楽しみました。年度途中からCSと一緒の礼拝に戻しました。CSの活動も少人数となっていますが続けることが出来ています。礼拝後の懇談などもやっと継続して行えるようになりました。一方で教会員の4名の方が召天され、さびしさを感じています。

主任担任教師不在も4年となり、今年こそ招聘をという教会員一同の祈りと願いがかない、主任担任教師を迎えることとなりました。2023年4月からは新しい教師と共に「地域に根差す教会」となるためにこども園への理解や支え合いを強め、新会堂や牧師館を用いた宣教を検討し、また組織や運営について工夫していきたいと考えています。神さまの強い導きと、地区や教区の諸教会の祈りと励ましのうちに支えられた教師不在の間の経験を活かし、信徒が積極的に教会運営を行っていくことを継続していきたいと思っています。

厚別教会

2022 年度は、宣教標語として「力は弱さの中でこそ」を掲げ、主題聖句に「コリントの信徒への手紙二12章9節」の御言葉が与えられ1年の歩みが守られました。教会員の動向として、クリスマス礼拝において3名の洗礼式が執り行われ、教会に新たな枝が加えられ大きな喜びを分かち合う時となりました。

2022 年度もコロナ禍の歩みが続きました。牧師と牧師家族がコロナ陽性となり1主日を在宅礼拝として守りましたが、それ以外の主日は教会に集まって礼拝を守ることができました。コロナ禍で始めた You Tube による礼拝のライブ配信も継続して共に礼拝を守ってくださる友が与えられています。クリスマスには感染予防・対策を心がけ久しぶりに聖餐式を執り行うことができ、コロナ禍で中止していた祈祷会を月1回のペースで再開し、3年ぶりに幼稚園の子どもたちと保護者を招いて教会と幼稚園のクリスマスコンサートを開催できました。

コロナ禍が明けつつある中にあって、飲食を伴う集会や愛餐会の再開について、教会全体会の 開催について、会堂建築に伴う返済、礼拝について等、課題と向き合いつつ新しい年度を歩み たいと願います。

2023 年度の宣教標語は「希望を誇りにして」、 主題聖句に「ローマの信徒への手紙 5 章 3-4 節」 の御言葉が与えられ、ひばりが丘明星幼稚園と 共に、地区・教区と連帯し宣教の働きを担って いく教会の歩みでありたいと願います。

東札幌教会

2022 年度も新型コロナウイルス感染状況に対応しながらの歩みとなりました。

今年度の宣教方針・活動計画「長期欠席者や礼 拝出席が困難な方」には教会員の寄せ書きを添 えた、お誕生カードを継続して送りました。

「新来会者を迎える教会」については、7月屋内ではありましたが、アジサイバーベキュー、9月には3年ぶりに土屋音楽教室がコンサート会場として礼拝堂を使用、10月は参加人数は多くはありませんでしたが、教会バザーを開催しました。クリスマス祝会やうたごえ喫茶は残念ながら中止、アジサイランチは数回のみとなりました。

「皆が参与する教会」については、礼拝出席者が司会や献金奉仕を分担して行いました。礼拝出席者も限られた人数でしたが、このような歩みができたこと、またお二人の方が転会者として、私どもの小さな群れに加わってくださったことは、大きな恵みでした。

一方で、かねてより黒田牧師の多忙なお働きの様子に、体調不良を案じておりましたが、1月10日から一週間の検査入院、現在通院治療中となりました。教会員一同一日も早い回復と神さまの癒しを祈り、教区・地区の皆さまのお支えに感謝し、主を仰ぎ、2023年度も希望をもって歩みたいと思います。

真駒内教会

2022 年度は、《あなたがたには苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている》(ヨハネによる福音書 16 章 33 節)を年間聖句に、「今だからこそ、〈祈り・隣人と生きる〉」を年間目標に掲げて歩んできました。新型 COVID-19 の感染拡大によって、牧師や教会員とその家族にも罹患者が出て多くの方が厳しい状況を経験しました。

ロシアによるウクライナへの侵攻に対して戦争 反対の文書を教会の窓に掲げ、募金という形で 平和への思いを現してきました。また、平和集 会ではポーランド在中の元教会員からの隣国の 状況と思いを報告していただきました。一刻も 早い戦争の終結を願います。

3年ぶりにバザーを開催できました。以前のような大々的なものではありませんが、こども園の関係者や地域の方も来てくださり楽しい交流の時となりました。「コツコツ販売(ミニ・バザー)」も継続して行いました。

札幌バプテスト教会(日本バプテスト連盟)や 札幌キリスト教会(日本聖公会)と協力して、 生活に困窮している方への食糧配布活動「みん なで助け合いプロジェクト」を行うことができ ました。隣人と共に生きることの具体化と考え、 次年度も継続して行う予定です。

「真駒内は元気で明るくなったね」と言葉をかけていただけることが多くなりました。うれしさで 2023 年度も、ますます元気に歩んでいけそうです。北海教区の皆さんと共に元気に歩んでいきたいと願います。

札幌元町教会

代務体制に入って1年2か月が経過した。礼拝は、第1=代務者と第3=外部牧師を説教者に迎えて、第2と第4=札幌北部教会礼拝にオンラ合に、第2と第4=札幌北部教会礼拝にオンラ合に大統、第5=札幌地区有志教会オンライン合になる。今年度は先の2年間のような新型コロナウイルス感染症がきたのですることなく守ることができるとができるとなりである。となりである。となりである。との1年間は、代称なりに感謝して担っている。この1年間は、代称なりにである。との1年間は、それのの庶務諸々や委員会活動・会堂管理など、代称なりにある。との1年間は、代称なりに関れてきた感がある。できたようにも見うけられる。

他方、新型コロナウイルス感染症対策によって 休止や縮小している活動、例えば、教会の交わり・バザーの開催・こどもプログラム・伝道活動など再開できていない活動もある。全てを「コロナ以前」に戻すことが目標ではないが、再開できる時期を見極めながら、併せて、今に適った活動の形を模索する必要がある。特に、「これからの元町のこと」を考えなければならない。中でも牧師招聘のことが一番の課題なのだが、日々のことに追われているうちに1年が過ぎた気がしている。

麻生教会

麻生教会は、1962 年 9 月の設立以来、麻生明星 幼稚園の運営を宣教の業として位置づけて園舎 に歩み、今日に至っています。旧会堂として園舎 は老朽化のため大規模な砂修を必要としてらり、 の要請に応えるべく、幼保連携型認定した。 の要請に応えるべく、幼保連携型認定した。 の要請に応えるべく、幼保連携型認定した。 の要請に応えるべく、幼保連携型認定した。 の要請に応えるでく、幼保連にしたので、長期にした。 を建築することにいたしましたので、長期につても ました。 2022 年 2 月には新園舎が完成し、りました。 ました。 2022 年 2 月には新園舎が完成し、りました。 ました。 2022 年 2 月には新園舎が完成し、りました。 ました。 2021 年 2 月には新園舎が完成し、りまには ました。 その後、礼拝堂の建築が始まり、 10 月 12 日に献堂式を行いました。 全献堂に当たり、多くの方々の祈りと献金に って支えられて行われた事業であったことを、 改めて心に留め感謝をしています。

10 月より新会堂で主日礼拝をささげています。また、幼稚園の保護者会のクリスマス礼拝や子どもたちの礼拝堂探検、お祈りの時間など、幼稚園でも新しい礼拝堂を活用しています。まだまだ、できることが多くありますので、様々な工夫をして、麻生における福音宣教に用いていきたいと思います。

札幌北部教会

2022年度は久世そらち牧師就任20年目でした。招聘の時の申し合わせで、「任期は設けないが、5年ごとに総括を行う」ことになっていました。そのことと、ここ3年のコロナ禍での礼拝、教会活動について教会員全員にアンケート(牧師について、回復したい教会活動、変えてもよいこと、新しくしてみたいこと、教会への提案)を行い、懇談会・修養会を合わせて3回実施しました。教会員が高齢化する中でも、前向きな意見が多く、それぞれの思いを確認する大切な時間となりました。現在、礼拝は短縮、祈祷会はオンライン、CSの活動もほとんどない状態ですが、2023年度からは対面の大切さを意識しながら、活動を広げていきたいと思います。

太平子どもの家は、集まってくる親子の数は少ないですが、まさしく親子たちにとって、ほっと広場になっています。今春卒園した複数の親子がキリスト教幼稚園を選んで入園を決めたことは、私たちにとってもとても嬉しいことでした。

2023 年度も地域と繋がり、教区内の諸教会と 繋がり、神さまの見守りの中で歩んでいきたい と思います。

琴似中央通教会

私たちはこの年度もまた、コロナ禍の中を歩み続けました。主日礼拝(短縮礼拝)こそ守り続けて来ましたが、交わりの時(愛餐会・茶話会等)は一度も実施することができませんでした。しかし、3名の受洗者と3名の転入者が与えられたことは特筆すべき大きな喜びでした。

私たちは今年度の宣教目標の一つとして「教会を開く」ことを掲げましたが、4月より早速「琴似アリア音楽教室」が開講されました。その受講生が礼拝に出席することもあり、またそのプログラムを子どもの教会で分かち合う機会もありました。1月からは地域の合唱団への会場提供も始まりました。他に、平和を祈るチャリティーコンサート、札幌地区オンライン合同礼拝への参加、置戸教会支援バザー等々、これらもまた「教会を開く」試みです。

一方、対内的な活動にも豊かなみのりがありました。新しい教会報『あゆみ』が発行されました。4回のミニバザーが実施されました。ちぎり絵教室「ひつじぐも」が開講されました。クリスマスは予定されていた集会をすべて実施することができました。

当年度の大きな課題の一つとして、新しい教会の組織作りがありました。そのため、例年の年2回の全体懇談会に加えて4回のミニ懇談会を開催しました。新年度より新しい教会組織・体制で盲教活動が行われる見通しです。

札幌手稲教会

「誰かのための誰かになる」。これを教会標語にして 2022 年度を歩んできました。春は誰かのために何ができるのか、を考えました。夏はその具体化として「オープンチャーチ」を開催し、地域の皆さんに教会を開放しました。秋は一時的に「コロナ」の状況が逼迫して、誰かのために祈りつつ過ごしました。冬は献堂式(1/29・日)を行い、新会堂のために祈り、協力くださった皆さんのために報告書を作成、送付する作業をしました。さて、その次の春は本格的に「誰かのための誰かになる」ための行事などをおこなう予定です。

2022 年度の礼拝は、「コロナ」対応の短縮礼拝を行い、それが定着した感があります。「コロナ」の状況は緩やかに下降気味です。けれども、礼拝式順を元に戻すのではなく、これを機会にさらなる豊かな礼拝を考えていきたいと願っています。

また、礼拝だけではなく、新会堂をどのように 用いていくかが大きな課題です。礼拝だけに使 うのは勿体ない。地域の誰かに、求めている誰 かに会堂が使われて、さらに教会の存在意義が 増していくと思います。地域に愛され、人に愛 されていく教会として、次年度も教区の皆さま と共に歩んでいきたいと願っています。

新発寒教会

宣教標語「信仰の自由を守り、希望を分かちあい、神の愛に生きる」。1 コリント 13:13 を年間 聖句に掲げ歩んできました。皆様の温かいご支援にいつも感謝しております。

毎月1回の礼拝説教をめぐる応答と分かち合い、学習会:「礼拝と司式者のつとめ」「再処理問題について」「ほしのみの取り組みについて」「気象変動と地球温暖化」「靖国問題」「沖縄フィールドワーク報告」。DVD 上映:「梅切らぬばか」「第8の戒律」を開催しました。わたしたちは、2020年に発表した「戦後75年を迎えての新発寒教会平和宣言」をより実りあるものにす

るためにささやかでも、取り組みを進めたいと考えております。毎月1回教会前で平和スタンディングを行い、原発汚染水放出反対、NO WAR!ウクライナに平和を、安倍元首相の国葬反対、沖縄・琉球弧の軍事化反対、ミャンマーに平和を!等のプラカードを掲げました。クリスマスには「平和を祈る」をテーマに「ビブリオトーク」(本の紹介)で盛り上がりました。読書会では「教会教を越えて」(F・ハウレット著)をとりあげ、翻訳者の大倉一郎さんをお迎えし、深い学びのときとなりました。(全7回)

また、北海道議会へ「特定放射性廃棄物最終処分施設の北海道における概要調査断念についての要請」を提出しました。北海道を安心して暮らせる島にして、こどもたちに手渡したいと願っております。

8 月に前任牧師である野村喬先生は天に帰られ、 11 月に記念会を開催しました。野村牧師のお働 きを感謝のうちにふりかえり、継承していく志 を新たにすることができました。

北広島教会

2022 年は「わたしのもとに来る人を、わたしは 決して追い出さない。」(ヨハネによる福音書 6 章 37 節)との御言葉を与えられ、教会に導かれ ているお一人お一人と共に祈り合い、受け入れ 合っていけますようにと願いながら歩みました。

引き続き新型コロナウイルスの感染対策を続けつつ、礼拝時間を短縮し、各会の例会や愛餐会なども控える1年を過ごしましたが、様々な制約があったにもかかわらず、先のイースター礼拝で一人の兄弟が洗礼に導かれたことは、教会にとって大変大きな喜びとなり、励ましとなりました。兄弟教会や地区・教区の交わりにも恵まれ、お祈りと多くのお支えもいただけたことを感謝しております。

近隣におられる生活に困窮する方々のためにフードバンクを通して食品をささげる働きを継続し、夏には炊き出し活動にも参加することができました。今後も地域に仕えて行く歩みを導かれたいと願います。

「ジュニアチャーチ」は引き続き教会全体の祈りの中で暖かく受け止められ見守られて4名のメンバーが定着し、活動しています。幼い魂の内側に育まれて来ている主イエス様への信仰が更に守られ強められて、受洗へと導かれますよう祈っております。

2023年度は「わたしは荒れ野に道を敷き砂漠に大河を流れさせる。」 (イザヤ書43章19節) の御言葉を与えられました。主の御業が現わされていきますように、お祈り頂ければ感謝いたします。

く後 志 地 区>

小樽教会

昨年同様マスク着用、賛美歌一節のみ、席の間隔をあけ、聖書朗読も司会も説教者が行い、会衆は着席のまま。玄関にアルコール消毒を置き入室および退出のときに手指の消毒をする。高齢な方は、自己の判断にて、出席する、という点を取り上げれば、変則的な礼拝しかできるようになり、感謝します。聖書研究祈祷会は休会。葬儀も最少人数の出席、という厳しい状況で過ごしました。そのようなことも、主の導きと思により、ようやく本来の姿に戻りつつあることは、感謝です

中央幼稚園も行事を変更したり中止したりしていましたが、園児数は、比較的順調に伸びてきています。

この一年を振り返り、礼拝を捧げることのできることが、いかに恵みであったかを、改めて確認し、これからも、このような予想もしないことが起こる可能性をよく認識し、何を本来原立とが起こる可能性をよう一度考え直し、原本に、真剣に考える機会とないまさに、時が良くても悪くても悪くこった。 宣教に努めよとの、主のご委託とご指示にもう一度、すべての教会員が、自覚すべき時からなる宣教の業に、励みたいと思います。

小樽公園通教会

2022 年度も「福音のためなら、わたしはどんな ことでもします」(第 1 コリント 9:19~23)と いうテーマを継続しました。ずっとこのテーマ でやっています。教会は人数がすべてではあり ませんが、人口減少と教会員の「高齢化」によ り、毎年のように礼拝出席者が低下しているの が現実です。そのことにより、財政面も低下し ています。教会としては「宣教」のアイディア を考えながらやっていくしかありませんが、今 年度も、「新型コロナウイルス」対策として、 礼拝以外のほとんどの活動は休みました。礼拝 も短縮を継続しています。しかし今年度は、受 洗者、転入会者を与えられ、少し新しい方もみ えはじめています。8月の超教派主催の平和集会、 2月後志地区主催、信教の自由を守る集会は、残 念ながら行えませんでした。しかし教会として は、8月平和の礼拝、2月信教の自由を考える礼 拝を守りました。今年も7月の教会創立記念礼拝 を短縮にし、墓前礼拝に変えて礼拝後短く「永 眠者記念式」を行いました。12 月のクリスマス キャンドル礼拝(24日)も中止としました。し かしクリスマス礼拝は短くですが、今回もクリ

スマスシーズンは、紙のクリスマスツリーを作り、各自の祈り願いを貼り付けました。私達は、その人が礼拝に来るかどうかだけではなく、いろいろな人との繋がりを増やしていくことが重要と考えます。いろいろなアイディアを出し合いながら、新しい時代に備えなければなりませし、将来は教会の合同も視野に入れなければならないかもしれません。小樽公園通教会を覚えてお祈りください。

手宮教会

1.2022 年度の主な働き

暫く代務者による教会運営が続いていましたが、4月に平宏史牧師が主任担任教師として就任しました。認定こども園手宮幼稚園の副園長を兼務しています。専任の牧師が与えられたことにより問安が活発におこなわれるようになりました(希望者には聖餐式を実施しています)。幼稚園の先生たちの聖書の学びもスタートしました。教会通信を毎月1回発行して教会の様子をお知らせしています。また10月より週報に前週の礼拝宣教の要旨を掲載するようにしました。振り返りや、礼拝に出席できない方の聖書の学びの一助になってくれればと願っています。

2. 当面する大きな課題

現在、幼稚園を借りて通年で礼拝を行っています。教会の土地と建物は取得していますが、内装工事と維持費を生み出すことが出来ないでいます。何か良い活用法はないかと模索中です。

幼稚園は3名の教職員の退職に対し、3名の教職員を採用することができました。新しい体制での一年となりますが、相手への信頼を深め、共に助け合いながら、子どもたちに質の高い保育を提供したいと願っています。

3. 新型コロナウイルス感染症が5月より第2類から第5類に代わり通常のインフルエンザと同じ扱いとなりますので、礼拝式を通常の礼拝式に戻し交読詩編を取り入れること、讃美歌も従来のものと讃美歌21とを併用しているのを讃美歌21に一本化することを定期総会において提案する予定です。

余市教会

北星余市高校の仲間たちが3~4名礼拝に集ってくださるようになりました。宗教主任の高濱梨紗先生がうまく学校と教会を繋いでくださいました。3年生がクリスマスに受洗。また、2年生も洗礼に向けて準備をしています。北星デーも2019年度以来久しぶりに行いました。夏は45名(食事の準備を札青協の皆さんが手伝ってくださり感謝)、冬は26名の参加がありました。語られる先生や仲間たちの言葉に心を動かされました。

新型コロナの影響の中で歩みを進めざるをえませんでしたが、礼拝堂での礼拝を休むことなく守り続けることができました。しかし、高齢の方、諸施設に入所されて外出が制限されている方は礼拝に集うことが困難になってきています。そういった疲れや行き詰まりからの回復の場としての礼拝、交わり、連帯でありたいです。

幼稚園でも変わっていかざるを得ない状況の中で先生たちがこどもたちのことを思い、素晴らしい働きをなしてくださっています。教会学校につながる家庭もあります。キリスト教を一緒に大切にしていくことができ嬉しいです。

今、後志の地域には風力発電計画が沢山持ち上がっています。地域住民の声を無視した計画です。自然は同じようには復元できません。神の創造したいのちが傷つけられていること。またアイヌモシリの搾取が起こっていることを思い、教会として地域の課題に共につながっていきたいと考えています。

また、前任牧師である小西陽祐先生とお連れ合い小西真理子さんの生活を支えたいと願い祈りを合わせて歩みを進めています。

岩内教会

①2022 年度の主な動き

2022 年度の礼拝出席者数は 14 人(年平均)で あった。教会員の他に、道内の他地域や海外か らの移住者が礼拝に出席している。また、幼稚 園職員も1ヶ月に1度続けて礼拝に出席している。 召天者記念礼拝は、ご遺族を礼拝堂に呼んでの 礼拝を無事に行うことができた(コロナ禍で自 粛していた)。そして、金澤伝道師就任式には、 後志地区から教職と信徒が出席くださった。ま た、オンライン(Zoom)での参加もあって感謝 であった。クリスマスイブの礼拝は、45人の参 加があった(幼稚園にて)。1月には、平宏史牧 師(手宮教会)をお呼びし、洗礼式が行われた。 さらに、ホームページを開設、Instagram のアカ ウント(22年度末にはフォロワー300人超に)も 作成し、岩内町の方々に、さらに教会の情報を 発信できるようになった。

②当面する大きな課題

教会員の減少・高齢化に伴い、礼拝出席者や礼 拝奉仕者が減っている。

③活動方針

23 年度、教会に少しでも足を運んでくれる人を増やすため、主日礼拝はもちろん、礼拝以外の諸活動も充実させたい。また、様々な理由をもって、教会から離れている教会員や関係者と継続してコンタクトをとって、教会に何かできることがあれば、それを行動に移していきたい。

俱知安伝道所

倶知安伝道所では、主日礼拝と聖餐式を守りな がら過ごしました。

平均の礼拝出席 7 名前後と安定しています。伝道熱心なクリスチャンホームが仕事の都合であまり出席しなくなりました。一方、派遣労働や冬季限定のホテル関係者が入れ替わり出席してくれています。

いわゆる「外国人」が頻繁に出席してくれます。 公用語として日本語で礼拝・説教を行っていま すが、それは中国系の方々から「日本語を学習 したい」という希望に合わせたものです。週報 には式文が掲載されていますので、司式者の声 が聞き取れなくても大丈夫にしています。説教 も小型のホワイトボードを2枚準備して、1枚に は説教の要点を日本語で、もう一枚には中心に なる聖句を TEV から抜粋して新共同訳との比較で 丁寧に説明しています。多様性を認めながらも、 きちんとした日本語でと考えながらすすめてい ます。日本キリスト教団が正統なプロテスタン ト教会であり、ここで執行される聖餐式も正統 であると主張することが、来訪者の安心・安全 に結びつくような気がしています。教団の式文 を守ります。

コロナが収束に向かい、街に賑わいが戻りました。 バブルではない地に足のついた発展を祈ります。

<苫 小 牧 地 区>

島松伝道所

1. 恵み

2022 年度も島松宣教協力募金へ地区・教区・全国から支援とエールをいただき大変励まされた。会堂再生・牧師館建築募金は教会内目標額2,418万円の84%に達した。2025年度の達成と完済を目指している。苫小牧地区教会からも継続して献げて頂いており感謝である。

感染予防対策を心掛けて毎週の礼拝、イースター、ペンテコステ、クリスマス祝会、祈祷会、聖書に親しみ祈る会を継続することができた。礼拝は希望者へオンライン配信を行なっている。当事者研究、ブックトーク、ゴスペルクワイアが継続、新たに協同労働の研究会、就労を考える会、地域食堂の試みなど、地域とのつながりが昨年度より増えている。また、7回目となった『島音祭』しゆま・おま・ぷ』も YouTube配信で実施した。大勢ではなく"小さく集まる"可能性や、コロナ禍にあって、つながりの回復を模索した。転入者1名、諸活動から礼拝へ導かれる方もあり、活動の広がりに神さまの宣教(ミッシオデイ)を感じている。

2. 苦労や課題

教会財政は個々健闘しているが、教区謝儀保障 や島松宣教協力募金に支えられている。引き続 き、地元野菜の販売(しままつ野菜だより)で のつながりと収益にも期待している。当面の願 いは、礼拝後のうどん食堂の再開である。

また、『島松だより』などをきっかけに、道内外の方からメンタルや生きづらさについての苦労を聴く機会が一層増えている。オンラインの当事者研究には道外の方も継続して参加している。教会の中で、安心して語り合える雰囲気づくりや、「その人が、その人らしく、その人なりに」あることを喜ぶ教会形成を他の教会の方とも一緒に目指していきたいと願っている。

千歳栄光教会

新型コロナウイルス感染症の影響は、ただ単に 教勢低下や献金減少にとどまらず、宣教活動へ の消極面があらわになった機会でもあったよう に感じている。そのような中、3名の高齢者の受 洗により、あらためて「信仰生活とは」を深く 考えさせられた思いである。熱心に求道する気 持ちに対して、教会が応えることができ、共に 喜びを分かち合うことができた。

<当面する課題>

ひとつには教会員の高齢化という要因もあり、 愛餐担当及び会堂清掃の奉仕者の減少傾向が見 受けられる。特に愛餐については、教会の交わ りを下支えする大切な業として、コロナ以降の 形を模索する必要性を感じている。

<活動方針>

まずは主日礼拝を信仰生活の中心として位置づけ、教会として歩むということを心がけたい。 教会では、オンラインの検討を含む礼拝の充実、また教会員の教勢的な安定を含む宣教仲間の充実を意識したい。学園では、千歳市との相談の上、千歳幼稚園の認定こども園化を判断する新年度となることが予想される。

苫小牧弥生教会

○コロナ感染予防のために教会の交わりが制限され、物足りなさを感じる方が多くいました。そこで、昨年からは毎月第3日曜日の礼拝後に「お楽しみ会」を始めました。愛唱讃美歌を共に歌う、バイオリンやハーモニカの演奏、手品や空手の形の披露、クイズなど、楽しいことなら何でもありです。また、礼拝後にささやかな茶話会を持つことも始めました。そのようにして交わりを少しずつ回復しています。

○2年後の教会創立70周年にむけて記念誌を編纂することになりました。更に、昨年度は「明日の教会を考える教会懇談会」を2回行い、教

会員の高齢化の中で今後どのような教会をめざ していくかを話し合いました。

○こども食堂「おいでや」は活動を始めて7年 目になりました。さまざまな団体や企業から寄 付金や寄贈品をいただいて、コロナ禍の中でも 子どもたちに安心して遊べる場所と手作りのお いしいお弁当を提供してきました。また、昨年 は市内で子どものための活動を行っている諸団 体による「子育て応援まちづくりサミット in 苫 小牧」にも参加しました。

○かおり幼稚園は、園児が減少傾向にあります。そのような中で、園児の獲得のために園の保育の様子など伝える発信力を高めようとしています。また、新年度から加藤副園長が園長になり、井石園長は宗教主事として幼稚園のキリスト教保育を支えていくことになりました。

幌泉教会

- 2022 年度もクリスマス礼拝など各種行事が守られました。
- 少人数の礼拝ですが、毎週安定して参加できました。
- 教会学校も平均すると5名程度の出席者がありました。
- 新型コロナ感染症予防対策のため、3 密を避け た形式の礼拝を続けました。
- 聖餐は中止しておりましたが、今後の見通し としては、新コロナ対策が第5類に移行次第、 記念行事の聖餐を再開する予定でいます。
- 会員の高齢化と札幌への移住などにより礼拝 に続けて出られる機会が減っている方々がお ります。それ以外にも介護や通院介助があ り、日常の動きが制限されることが出てきて います。教会活動が過負担にならないように 心がけています。

また、上記の事情から教会員が遠方の会議に参加することが、ますます困難になってきております。しかし、幸いにも Zoom を活用した会議が持たれることにより負担が減ったことが実感できました。感謝です。今後ともおおいに活用されることを期待しています。

浦河教会

*4月17日(日)イースター礼拝 新しい教会堂の建築に併せて、待望の納骨堂も完成しました。これまで個々に保管していた骨箱を合同で納骨堂に納めました。

*7月17日(日)教会堂完成感謝記念礼拝、講演会に奥田知志牧師【日本バプテスト連盟東八幡教会牧師。学生時代から始めていた「ホームレス支援」を教会の課題として継続し、北九州市において3000人(2022年6月現在)以上のホーム

レスの人々を自立に導いた NPO 法人「抱樸-ほうぼく」(北九州ホームレス支援機構理事長)】をお招きしました。会堂の他、堺町会館で講演会を開きました。

*9月11日(日)教会堂完成感謝記念礼拝、ソプラノコンサート(ソプラノ歌手菅英三子さん)は、すべて準備が整いチラシ配布の段階で、コロナ感染者拡大から2回延期し、開催を急遽断念しました。内容が歌唱で、マスク使用は難しいこともありました。歌うことが大好きな方が多い中で残念でした。

*昨年度は感染拡大防止のため「べてるの家」の対処に連携して、秋に 1 回(10/9)、冬に 3 回(11/13、12/4、12/11)、主日礼拝と祈祷会を休みました。それでも通常礼拝・祈祷会を継続できたことは、地方の人口減少地域ある教会の喜びでした。

*10月16日(日)に仙台北コイノニア会(教会研修会)からのリクエストで、礼拝からつないで浦河教会からの発題を共有しました。

*10月23日(日)に苫小牧地区信徒大会に礼拝に 引き続いて zoom で繋いで礼拝堂で交流を行いま した。

*11 月 6 日(日)に納骨者を覚え、逝去者記念礼 拝を行いました。

*12月24日(土)に元浦河教会との合同イブ礼拝を行いました。イエス降誕劇を、会員がそれぞれ担って新鮮な礼拝となりました。

*3月19日(月)22年度教会宣教活動の一つ「『当事者研究』を用いて、教区内の教会と交流を進める」一つとして、島松伝道所と繋いで第1回を試みました。

*五味牧師は超高齢を理由に5月末で退任されます。後任牧師招聘に向けて元浦河教会と共同で 作業に取り掛かりました。

課題

浦河教会は「宣教と牧会」の務めを、「福祉と 医療」を務めとするべてるの家に丸投げしてき たきらいがあります。両者には重なる領域が多 くあります。それだけに、今後、教会の成熟が 期待されています。

元浦河教会

元浦河教会は、2 年間続けた年間聖句を、この「小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる」(1954 年改訳新約聖書ルカ福音書12:32)を用いました。

この聖句を選んだ M 氏は大変寡黙な人でしたが、教会総会準備の役員会でこの聖句を選んだ、というのです。通常の役員会でもほとんど発言する人ではなかったので、皆驚きました。他に数

人選んできていましたが、年間聖句は問題なく このM氏が選んだ聖句に決まりました。

それからしばらくして、突然 M 氏が体調を崩し 天に召され、次の年の聖句も M 氏を記念して教会 活動を進めることにしたのです。同じ年の 11 月、 長いこと元浦河教会を支えてきた S 子さんが旅立 ちました。不思議な雰囲気を身に纏う、ふんわ りおだやかな女性でした。S 子さんが亡くなる数 か月前、同じ苫小牧地区の男性信徒から元浦河 教会に多額の献金がありました。「S 子さんの導 きで自分は信仰者になった」と言っている方か らでした。S 子さんがしっかり種を蒔いていたの だ、と感動したものです。

一陣の風のように2年程前より、月に1~2度隣町より名寄教会出身のK子さんが礼拝に出席してくれるようになりました。前向きでエネルギッシュで礼拝の奏楽も快く担ってくれています。

「五味先生がいなくなっても、みんなで頑張ろう!!」と真っ直ぐな目でいう K 子さん。わたしたち古株は皆、五味先生辞任に意気消沈しているのですが、K 子さんの一言で、本当に頑張れそうになるから不思議です。神様! ナイス配剤!!

五味牧師が辞任なさいます。7年間先生は説教の度、真剣勝負のつもりで私達と対峙してくださったと思います。説教は「主日聖書日課」に従い、あまり親しんでこなかった旧約聖書に聞きました。何人も「神に立ち帰れ」と預言者を立て、バビロン捕囚の悲劇など厳しく裁きながらも契約に生きる民として見捨てない旧約の神。今を生きる私達も、旧約の民と同じ普遍的な課題を突き付けられていると思いました。

今は不安ばかりですが五味先生は「教会は牧師のものではなく信徒もの」と、よく言っていました。できる事を祈りながら推し進めていけたらと思っています。

室蘭知利別教会

2022 年度も新型コロナウイルス感染症の拡大状況に警戒しながらの教会活動となりました。4 月は園児の、12 月は牧師家族と牧師の感染により、急遽主日礼拝を家庭礼拝としました。イースター合同礼拝・ペンテコステ礼拝では聖餐の執行はせず、1 年ぶりの聖餐を執り行いました。礼拝後の昼食は再開していません。

2 人の方が召され、堀本冨美子さんの葬儀 (6/18・19)・納骨式(8/6)、和田則子さんの 葬儀(1/30・31)を執り行いました。受洗教会 である稚内教会・月寒教会に当時の様子を調べ ていただき感謝申し上げます。

大人と子どもの合同礼拝(イースター・平和聖日・敬老の日・収穫感謝・クリスマス・新年)と、永眠者記念礼拝・墓前礼拝(9/25)は短縮

しつつ例年通り行いました。北海道キリスト教書店の企画により、片柳弘史神父と宣道牧師が対談する「牧師さんと神父さんは何を信じて生きているのか」(zoom)に協力しました。

長く開催できていなかった教会協議会を久しぶりに開催しました。聖餐やうどん食堂など、教会活動の再開の声がありました。リードオルガンの寄贈や修理について、礼拝時の聞こえについて、外の十字架のサビ(設置)について等の意見が出ました。

認定こども園室蘭めばえ幼稚園は、常勤保育教 論の確保ができずクラス編成(担任の配置)に 苦慮しております。お祈り下さい。

洞爺湖教会

創立70周年を迎えた今年度は、コロナ禍でも会堂での礼拝休止はせずに過ごせました。「こころの友」の近隣への配布も厳寒期を除く毎月に実施。それ以外にも昼食会や避難訓練など、できたことも少し増えました。礼拝出席者の平均が10名を越え、その中から転入者があったことは喜びでした。白鳥台家庭礼拝も続けられています。

総会で設置された噴火災害対策委員会では、 周期的な噴火への懸念がある中、防災準備と 同時に、噴火災害を繰り返す地に立てられた 教会としての内外への働きを改めて考えまし た。秋に、前回噴火時に災害ボランティアと た。秋に、前回噴火時に災害ボランティアル を 大きれを用いた分 居正信牧師に提言を依頼し、それを用いた分 と おち合い礼拝を実施。災害マニュアル作りに も着手しましたが、教区などとの組織的では 携が必要なことから、当事者の単独協議では 難しく、現時点では連絡手段に関する冊子の みを作りました。

同じ総会で設置された創立70周年記念委員会では記念誌を発行。11月に記念の讃美礼拝を行いました。また教会報「トー・ヤ」を創刊号から綴り教会内で配布しました。

佐藤待子牧師との歩みも6年。多くの祈りと関わり、献金に支えられていますが、昨年度の見込み通り財政的に厳しくなり、教職謝儀保障費を申請するに至りました。壊れたボイラーの交換費用も開拓伝道資金に補助を申請。こうした援助は本当にありがたいことです。支えられていることへの感謝を働きに生かしたいです。

< 道 南 地 区>

八雲教会

2022 年度の年間聖句は「信仰と希望と愛」(コリントの信徒への手紙一 13 章 13 節)でした。

2022年3月末で渡辺兵衛牧師が引退され、4月から反町潤平牧師が着任しました。牧師の働きに加えて、八雲幼稚園の園長としての働きも担っています。7月31日に、北海教区議長の原和人牧師の司式で反町牧師の就任式を行うことができました。

クリスマスには、幼稚園の子どもたちが礼拝の中で賛美歌を歌ってくれました。そして、例年通り礼拝に続きクリスマスコンサートを行うことが出来ました。地元のコーラスグループと、吹奏楽のグループが来てくださっています。教会・幼稚園・地域の方々60名ほどが集い、恵みの時を過ごしました。

今年度の礼拝に新来会者が20名以上いて、子ども連れの二家族も来てくださっていることは大きな喜びです。これからも続けて来てくださることを祈ります。

1月の下旬から2月の上旬にかけて、幼稚園の子どもたちや職員が新型コロナウイルスに感染し、反町牧師も体調を崩して1回休むことがありましたが、前牧師の力も借り、主日礼拝は休むことなく行うことが出来ました。これからも喜びを持って歩み続けたいと願っています。

利別教会

2022 年度聖句「ある人たちの習慣に倣って集会を怠ったりせず、むしろ励まし合いましょう。かの日が近づいているのをあなたがたは知っているのですから、ますます励まし会おうではありませんか。」(ヘブライ人への手紙 10 章 25 節)

2022 年度教会目標「共に集まり、神を礼拝し、祈りましょう。」

5月に石橋隆広主任担任教師より辞任の申し出があり、7月の臨時総会に於いて今年度末をもっての辞任が可決されました。直ちに信徒会を開催し、教師招聘委員会を立ち上げ、教区人事部の先生方と相談を重ねながら検討を進めてまいりました。

出来るだけ丁寧な招聘を心掛け、信徒会は3回、教師招聘委員会は10回行いました。その結果、幸いな事に無任所教師で現在浜頓別町におられる金鍾九先生をご紹介いただき、2月19日の特別礼拝にお招きしメッセージを賜わり、懇談会を開きました。

3月の総会に於いて満場一致で感謝をもって金鍾九先生を招聘させて頂くこととなりました。 承諾書もいただき着任は7月15日です。4月からの3ヶ月間の代務者を函館千歳教会の柴田もゆる先生に承諾していただきました。

9 年間当教会で牧会伝道して下さった石橋隆広 先生と香代子先生に心より感謝申し上げます。 またこの度の招聘に尽力下さった教区人事部の 先生方、ご協力下さった道南地区の皆様、当教会を祈りのうちに覚えて下さっている皆様に感謝し、主の恵みが豊かにありますようお祈り申しあげます。

函館教会

昨年度に引き続き、コロナウイルスの感染防止対策に注力しつつ、主日礼拝、水曜祈り会(朝・夕)を継続することができた。聖餐礼典も、これまで通り毎月第1主日、イースター、ペンテコステ、クリスマス礼拝と教会創立記念礼拝に執行した。定期集会としては、このほかに月1度礼拝後の婦人会祈り会と主日朝のこどもの礼拝があるが、こどもの礼拝は、まだ定期的な出席者がいない。収穫感謝礼拝やイースター、クリスマスの行事には出席者が与えられている。で、定着者が与えられることを祈っている。

通信アプリを使った主日礼拝の同時配信や、録画 DVD・録音 CD の配付を行い、施設や自宅で礼拝を守らなければならない方々に喜ばれている。教団聖書日課について、LINE で「御言葉の恵みの分かち合い」も続けている。

現住陪餐会員が昨年 5 月から 10 名減少して 48 名になったが、仕事で函館に移住した人たちや中高生の出席もあって、主日礼拝の出席人数は昨年度とほぼ同数であった。

新年度からは、主日礼拝の讃美歌を省略せずに全節歌うこと、壮年会例会を再開することが予定されている。受洗準備会や求道者会の出席者が与えられることも祈りの課題である。

七飯教会

2022 年度も、コロナの状況への緊張を抱えつつの1年でありましたが、週ごとに会堂に集まって礼拝を献げ、月に一度、聖餐の恵みに与り、また「聖書と祈りの会」、「信仰の学びの会」、「信仰の学びの会」、の集会も続けることができました。そのようにして、この一年を歩むこと叶えられました。5月には、聖霊の豊かな導きのもと、幼児洗礼を含めて3名のと洗者が与えられ、一同、大きな喜びと励ましまで、心よりの賛美と感謝をお献げします。祝会や愛餐会は未だ休会としております。次年度、早い時期に再開できることを願い、切に祈っております。

1月末~2月にかけて、例年になくかなり気温の低い日が続き、日中と深夜の二度にわたって水道管が凍結する、という事態に見舞われました。幸い、水道管の破裂、破損にまでは至りませんでしたが、建物自体の老朽化もあり、水道菅凍結防止対策のみならず、全体の防寒対策の速やかな検討が必要となっております。

最後になりましたが、2022 年度も教区からの謝 儀保障、及び地区宣教協力資金からのお支えを 頂きましたこと、心から感謝申し上げます。

函館千歳教会

1. 2022 年度の主な動き

2022 年度は、「キリストの愛に生かされる教会」 (ヨハネ 15:12) を教会標語とする 3 年目の歩み であった。礼拝出席者は平均 41 名で 3 名増。転 入会者 3 名、召天者 3 名などの異動があり、現住 陪餐会員は前年同様の 67 名となった。

前年度同様、新型コロナウイルスの影響で、 様々な制約を受けて歩んだ1年であったが、主日 礼拝を休止することなく守ることができたこと は感謝である。その一方で聖餐式、うどん食堂 や愛餐会などの飲食を伴うプログラム、訪問活 動の見合わせが続いた。年度の終わり近くに、 教会のコロナ対策を中心としたアンケートを実 施し、その集計結果をもとに今後の教会活動の 方向性を見定めていくことになる。具体的には、 現時点で感染状況が落ち着きつつあるので、4月 から聖餐式を再開し、状況を見ながら諸活動を 再開していくことになりそうである。

Zoom を使った主日礼拝の同時配信(教会ホームページからアクセス可)も継続している。

教会財政は、年々厳しくなり、今年度も前年度 繰越金を除いた単年度収支では赤字決算となった。 2. 当面する大きな課題

引き続き、コロナの影響によって希薄になりつつある教会員相互の交わりをどのように確保していくのかが課題である。それに加えて、高齢化や入院や施設入居によって礼拝出席が困難になっていている方々も増えている。そう遠くな

い将来に訪問等が可能になり、祈りと交わりを 共有することができるよう願っている。

隣接する函館ちとせ幼稚園は、6月から幼保連携型認定こども園への移行に伴う園舎建て替え工事が始まり、1月には新園舎が完成、既に使用が始まっている。2023年度からは幼保連携型認定こども園としての歩みが始まる。このはたらきが教会の祈りの中で常に覚えられ、主のご委託に基づく奉仕のわざとして前進していくことができるよう願うものである。

3. 活動方針

2023 年度から、「キリストに結ばれて歩む教会」 (コロサイ 2:6) を標語として歩んでいく。

江差伝道所

2022 年度の一番の課題は、屋根の葺き替え工事でした。全道募金、開拓伝道資金の給付、多くの人々の献金に支えられ、予想以上の応援をい

ただき必要が満たされたことを感謝いたします。工事が終了しきれいな屋根になり、雨漏りの心配もなく過ごすことができています。遠くから近くからのたくさんの支援に、改めて多くの人に愛され支えられている教会であることを実感しました。教会員一同「この小さな教会の灯火を消してはならない」と再確認する出来事となりました。

今年度はプロジェクターとスクリーンを渡島福島教会から貸していただき、イスラエル・オンラインツアー、年修オンライン、地区「秋の集い」に教会で集まりオンラインで参加しました。オンラインだからこそ初めて年修や地区の集いに参加できた方もおられました。画面越しに沢山の懐かしいお顔を拝見し、喜んでいましたが「やはり、実際にお会いしたい」という声が聞こえました。今年こそは、実際にお会いして集会できることを祈ります。

長年、教会の会堂守をして下さった姉妹が高齢のため近所に引っ越しされました。今は通いで教会の管理して下さっています。現在、住み込みで会堂管理して下さる方を広く募集しています。

渡島福島教会

礼拝を毎週守ることができることが一番の喜びです。隔週の讃美祈祷会も喜びのひと時です。「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる」(マタイ18:20)とあるとおり、小さな集まりの真中に主がおられることに感謝しています。

福島幼稚園の園児と共に、イースター、母の日、 父の日、幼児祝福礼拝、クリスマスと礼拝を献 げることができました。ご家族にも福音に触れ ていただく良き機会になりました。近所の方や、 園児家族が、通常の礼拝にも出席して下さるよ うにと祈っています。

● 編集・発行 ●

日本キリスト教団 北海教区

060-0807 札幌市北区北7条西6丁目 北海道クリスチャンセンター3F 公式ホームページ: http://www.hokkai-net.jp/